



# 第2期八雲町総合計画の概略

資料1-1

## 八雲町総合計画とは・・・？

まちづくりの目標とその取組方向を示すものであり、八雲町の最上位に位置する計画。長期展望に立ったまちづくりの基本的な考え方を明らかにするとともに、町民と議会及び行政が一体となったまちづくりを進めるための指針を示す。第2期の計画期間は平成30年度から令和9年度までの10年間。

## 基本理念

第2期八雲町総合計画の基本理念は、八雲町民憲章とする。

### 八雲町民憲章

- 1 自然を愛し美しい町をつくろう
- 2 助け合うたあたたかい町にしよう
- 3 活気あふれる町にしよう
- 4 つねに進歩する町民になろう



## 八雲町の将来像

### 八雲発！自然と人を未来へつなぐ



八雲町は太平洋と日本海、2つの海をもつ自然豊かな町として、歴史を紡ぎながら、将来に向けて農業・漁業のさらなる“発”展と新幹線開通を契機に、再生可能エネルギー導入による自然との調和を生み出し、八雲町の魅力を積極的に町内外へ“発”信することで、産業・経済・ひとが活“発”で笑顔あふれる町になるよう、これまで積み上げてきた自然と人との多様なつながりを未来へつなげるという想いを込め、これを10年後の目指すべき将来像とする。

## 戦略プロジェクト

### 八雲町自立促進プロジェクト

食を支える第一次産業と再生可能エネルギーを活用した産業の振興を図り、地域の経済活性化により、行財政運営における自立実現を目指す。



### 道南北部中心プロジェクト

総合病院の機能の維持や北海道新幹線を中心とした広域的な交通体系や周辺整備等により、道南北部自治体の中心としての機能を高めていくことを目指す。



## 基本目標 1 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

北海道新幹線新八雲(仮称)駅の開業を控え、広域交通網の一端を担う道南北部中心の町としてふさわしい道路網・交通体系、上下水道などの生活を支える都市基盤の整備を進める。また、人口減少、少子高齢化時代に向けた生活利便性の維持・向上や行政コストの削減などを目指した、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの推進による持続可能なまちづくりを進める。

- 土地利用の推進
- 市街地及び集落の環境整備
- 道路網の整備
- 上・下水道の整備
- 緑化・環境美化の推進
- 消防・救急体制の充実
- 自然環境の保全
- 交通体系の整備
- ごみ処理等の環境整備
- 防犯・交通安全の推進
- 防災体制の強化

## 基本目標 2 八雲の豊かな資源を活用した産業振興

町の基幹産業であり、八雲の最大の魅力の1つである“食”を支える第一次産業や、現在、町が進めている再生可能エネルギーを活用した産業の振興を、今後さらに推進していく。また、こうした産業の基盤となる豊かな地域の資源を、商工業や観光業にも活用しながら、地域経済の活性化や雇用の創出に繋げていく。

- 農林業の振興
- 商工業の振興
- 雇用の創出と雇用環境の向上
- 再生可能エネルギーを活用した産業の振興
- 水産業の振興
- 観光の振興

## 基本目標 3 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

町内に複数の病院を有する八雲町においては、広域的にも医療の拠点としての役割が期待されていることを踏まえ、各病院の機能強化を推進する。また、高齢者や障がい者、子育て世帯等に対する公的な支援の充実を図るとともに、地域における支え合いの強化に向けて、自助・共助・公助といったそれぞれの役割を踏まえた、様々な課題解決の取り組みを進める。

- 健康づくりの促進
- 地域福祉の促進
- 子ども・子育て支援の強化
- 障がい者福祉の推進
- 医療体制の充実
- 高齢者福祉の推進

## 基本目標 4 ふるさとを築く教育の充実と文化・スポーツの振興

次代の八雲町を担う子どもたちが、それぞれの資質を伸ばしながら健やかに成長し、様々な世界で夢を持って活躍する力を養うとともに、八雲町をふるさととして大切に想う気持ちを持ち続けられるような学校教育を推進する。また、町民が生涯に渡って豊かな暮らしを実現できるように、文化・スポーツの振興や、歴史を伝える文化財の保存とその活用に取り組む。

- 学校教育の充実
- スポーツの推進
- 生涯学習の推進
- 文化財の保存・活用

## 基本目標 5 八雲の自立を実現する協働と行財政運営

自治基本条例に基づく協働のあり方をはじめ、まちづくりに関わる多様な情報発信・共有を積極的に行うとともに、まちづくりの担い手となる地域の人材の育成に努める。また、行政組織のスリム化や業務の効率化、広域連携による課題解決も含めた、多様な手段で、適正な行財政運営を目指す。

- コミュニティ活動と交流の促進
- 住民参画の推進
- 行財政の強化
- 情報・広報体制の充実
- 広域行政の推進

第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
----	----	-------	------	----------	-------------	-----------

第1章 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

分野1 土地利用の推進						
1 行政施設の整備						
		役場新庁舎整備事業	1～6	総	0	
		役場本庁舎トイレ洋式化改修事業	30	総		
		役場本庁舎エレベーター改修事業	30	総		
		熊石総合支所暖房設備改修事業	4	地		
		熊石総合センター大規模改修事業	4～5	地		
		熊石職員住宅解体事業	2～6	地		
		町有建物解体事業	4	地		
2 地籍調査の推進						
		地籍調査事業	全期	総	38,110	測量調査:上の湯、わらび野、桜野の各一部地区 18.15km <sup>2</sup>
3 町有地等の処分の推進						
4 コンパクトなまちづくりの推進						
		立地適正化計画策定事業	30～1	建		
		都市計画マスタープラン変更検討事業	3～5	建	2,749	用途区域、都市計画道路等の修正検討
		都市計画区域変更調査事業	30～1	建		
分野2 自然環境の保全						
1 地球温暖化対策の推進						
		LED街路灯整備事業	30	政		
2 森林及び河川環境の整備・保全						
3 野生鳥獣の保護と管理						
		有害駆除対策事業	全期	農	4,526	ヒゲマ22頭、エゾシカ186頭捕獲
		有害大型獣解体処理施設整備事業	1	農		
		有害鳥獣駆除事業	全期	産	753	エゾシカ捕獲16頭 有害鳥獣巡回報償費
		狩猟免許等取得費補助金	全期	農	968	新規狩猟者3名
分野3 市街地及び集落の環境整備						
1 都市計画道路の整備						
		3・4・2出雲通都市計画道路整備事業	1～5	建	4,290	雨水排水施設整備工事 L=57m
		3・4・7本町大通排水路整備事業	5～6	建		
		本町大通融雪溝井戸浚渫事業	3	建	2,035	本町地区融雪溝井戸の浚渫工事
		3・4・4富士見通都市計画道路整備事業	6	建		
2 公営住宅の整備						
		町営住宅建替事業	30～5	建	5,080	出雲町C団地基本・実施設計 2棟6戸
		町営住宅建替事業	4	地		
		町営住宅外壁等改修事業	5～6	建		
		町営住宅外壁等改修事業	30、6	地		
		八雲町公営住宅等長寿命化計画策定業務(見直し)	1	建		
3 空家等対策の推進						
		空家等対策支援補助金制度事業(再生支援)	全期	建	0	
		空家等対策支援補助金制度事業(解体支援)	全期	建	0	
		空家解体推進事業	3～5	建	6,401	戸建空家の解体支援 13戸
4 質の高い住環境の整備促進						
		アイヌ住宅整備資金貸付事業	全期	住	4,800	改修1件
5 基地の充実及び基地周辺的环境整備						
分野4 道路網の整備						
1 国道及び道道の整備促進						
2 スマートIC整備の検討						
3 町道の整備及び維持改修						

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		大新線改良舗装事業	30	建		
		東雲幹線道路改良事業	30	建		
		内浦大新線道路改良舗装事業	6	建		
		道路改良事業	全期	建	91,551	三杉9号線外3路線 道路改良舗装 L=610m
		道路台帳図修正整備委託事業	全期	建	504	道路整備による台帳整備
		道路維持改修事業	全期	建	49,445	元町東町幹線・富士見1号線 路面改 修L=374m
		道路維持改修事業	3~6	地	23,991	路面補修L=1,098m
		道路橋長寿命化修繕事業	全期	建	119,570	設計N=5橋 改修N=6橋 点検N=45橋
4		道路管理機能の強化				
		自動車購入事業	3~5	建	8,096	電気自動車1台 小型乗用自動車2台
		自動車購入事業	2	地		
5		除雪対策の充実				
		除雪機械整備事業	30~5	建	13,091	除雪ドーザ8t級 1台
<b>分野5 交通体系の整備</b>						
1		北海道新幹線の整備促進				
		北海道新幹線建設促進八雲期成会負担金	全期	新	190	新幹線建設促進要望活動等
		新幹線駅設置自治体地元負担金	全期	新	1,235	用地取得、物件移転補償等
2		新八雲(仮称)駅周辺整備の推進				
		北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備基本計画 策定事業	30	新		
		北海道新幹線新八雲(仮称)駅周辺整備事業	3、6	新	4,070	新幹線駅周辺深層地下水電気探査
3		並行在来線対策の推進				
		並行在来線将来需要・収支予測調査事業	2	新		
4		公共交通の確保				
		地域公共交通網形成計画策定事業	1	政		
		地域公共交通網形成事業	1~5	政	15,080	熊石大成間予約バス、熊石八雲間予 約バスの運行
<b>分野6 上・下水道の整備</b>						
1		良質な水の供給				
		水道施設整備事業(井戸浚渫) 市街地	4~6	環		
		水道施設整備事業(取水施設更新) 落部地区	30~1	環		
2		水道供給施設の整備				
		配水管整備事業(新設) 市街地	全期	環	2,365	配水管新設 L=109.7m
		配水管整備事業(更新) 市街地	全期	環	30,228	配水管布設替 L=147.4m
		配水管整備事業(更新) 落部地区	全期	環	7,601	配水管布設替 L=265m
		配水管整備事業(更新) 野田生地区	2	環		
		配水管整備事業(緊急時対応) 落部地区	全期	環		
		水道施設整備事業(管洗浄) 市街地	全期	環	7,777	MHの設置2箇所
		水道施設整備事業(外構整備) 市街地	30~2	環		
		水道施設整備事業(施設補修) 市街地	2~3、5~6	環	1,085	旧PCドーム屋上防水塗装改修
		水道施設整備事業(施設補修) 落部地区	30~3	環	7,574	落部浄水場屋根改修
		水道施設整備事業(施設補修) 野田生地区	30~3	環	2,304	浜松配水池屋上・外部・内部防水塗装 改修
		水道施設整備事業(場内弁類更新) 野田生地区	30、3	環	3,234	野田生浄水場内弁類更新
		水道施設整備事業(場内弁類更新) 落部地区	3	環	946	落部浄水場内弁類更新
		水道施設整備事業(除湿乾燥機更新) 落部地区	1	環		
		水道施設整備事業(除湿乾燥機更新) 野田生地区	1	環		
		水道施設整備事業(電気計装更新) 市街地	3~5	環	3,480	電気計装設備一式の更新
		水道施設整備事業(電気計装更新) 落部地区	1~6	環	7,301	電気計装設備一式の更新
		水道施設整備事業(電気計装更新) 野田生地区	2~3	環	219	電気計装設備一式の更新
		水道施設整備事業(電気計装更新) 黒岩地区	5	環		
		水道施設整備事業(取水施設) 大新地区	6	環		
		配水管布設替事業(老朽管更新)	30~2	地		

第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		ろ過池・配水池防水事業	2~5	地	6,996	開閉台7基・通気筒2基
		紫外線殺菌処理施設整備事業	1	地		
		水道施設整備事業(浄水場屋上防水層改修) 大新地区	30	環		
		浄水場機械器具更新事業	1	地		
		計装設備整備事業	30	地		
		水道施設整備事業(管路台帳OA化) 市街地	全期	環	946	管路調査およびGIS加工
		水道施設整備事業(管路台帳OA化) 落部地区	全期	環	526	管路調査およびGIS加工
		水道施設整備事業(管路台帳OA化) 黒岩地区	2	環		
		水道施設整備事業(管路台帳OA化) 野田生地区	3	環	309	管路調査
		水道施設整備事業(管路台帳OA化) 大新地区	3	環	6,651	管路調査およびGIS加工
	3	未給水地域の解消				
	4	下水道事業の促進				
		公共下水道整備事業	全期	環	63,849	下水処理場実施設計業務委託、管渠新設L=201.0m、汚水柵設置工5箇所
		熊石地区特定環境保全公共下水道整備事業	全期	環	4,820	下水処理場実施設計業務委託
		農業集落排水施設整備事業	全期	環	20,082	集排処理施設実施設計業務委託
		真萩ポンプ場再構築基本計画事業(長寿命化)	30、2~5	建	6,580	長寿命化計画に基づく改修
		真萩ポンプ場再構築基本計画事業(修繕事業)	30~1、5~6	建		
	5	水洗化の普及促進				
	6	合併処理浄化槽の普及促進				
		浄化槽設置整備助成事業	全期	環	6,200	5人槽5基、7人槽3基
	7	効率的な事業運営の推進				
		公共下水道公営企業会計適用事業	2~4	環	1,485	法適用固定資産調査・評価実施
		特定環境保全公共下水道公営企業会計適用事業	2~4	環	396	法適用固定資産調査・評価実施
		農業集落排水公営企業会計適用事業	2~4	環	1,320	法適用固定資産調査・評価実施
<b>分野7 ごみ処理等の環境整備</b>						
	1	ごみ収集体制の強化				
	2	ごみ処理施設の整備				
		最終処分場浸出水処理施設修繕事業	3~6	環	7,480	汚泥脱水機分解整備
		リサイクルセンター修繕事業	全期	環	5,651	トラックスケールシステム更新、重量表示機配線他修繕、缶圧縮成形機圧縮シリンダ取替修繕
	3	3Rの推進				
		ごみ減量化・資源化推進事業(生ごみ処理機・資源ごみ回収助成)	全期	環	1,432	資源ごみ回収助成16団体
	4	し尿処理施設の管理				
		山越郡衛生処理組合負担金(基金積立金)	30~1	環		
		汚水処理施設共同整備事業	30~1	環		
	5	火葬場施設の管理				
		八雲斎場修繕事業	全期	環	5,709	火葬炉1号炉設備主燃焼炉耐火物修繕
		熊石斎場火葬炉整備事業	30~6	住サ	358	熊石斎場バーナー・コン修繕
		落部地域合葬墓整備事業	4	環		
	6	公衆浴場の確保				
		公衆浴場確保対策事業	4~6	環		
	他	海岸漂着物処理事業	4	環		
<b>分野8 緑化・環境美化の推進</b>						
	1	環境美化の推進				
	2	公園や緑地の整備				
		噴火湾パノラマパーク運営事業	30~6	公	39,041	パノラマパーク指定管理業務
		パークゴルフ場防球ネット増設事業	3	公	3,300	パノラマパークゴルフ場防球ネット増設
		パークゴルフ場券売機更新事業	6	公		

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		噴火湾パノラマパークパークゴルフ場管理棟設置 事業	4	公		
		噴火湾パノラマパークパークゴルフ場スタート台整 備事業	4	公		
		公園休憩棟・木橋改修事業	3	公	1,541	遊楽部公園休憩棟・木橋改修
		公園管理棟改修事業	4~5	公		
		都市公園管理業務委託事業	全期	公	37,637	公園管理委託
		都市公園等遊具修繕・更新事業	30~6	公	1,988	一般公園遊具修繕・更新
		都市公園等芝管理機械更新事業	30~6	公	3,432	サランベ公園乗用芝刈り機更新
		都市公園機能維持保守事業	30	公		
		都市公園等トイレ改修・改築事業	30	公		
		あかしや保育園跡地公園整備事業	30	公		
		立岩公園改修事業	2	公		
		一般公園管理作業用軽トラック購入事業	4、6	公		
	3	協働による緑化の推進				
<b>分野9 防犯・交通安全の推進</b>						
	1	消費者教育及び消費生活相談の充実				
		消費者行政推進事業	30	政		
		消費生活相談事業	全期	政	326	消費生活相談業務負担金
	2	地域防犯運動の推進				
	3	交通安全施設の充実				
		交通安全施設整備事業	全期	総	1,267	区画線等5,737m、カーブミラー5枚購 入
	4	交通安全団体への活動支援				
	他	自動車運転免許証自主返納支援事業	2~6	総	1,359	事業利用者160名、チケット使用率 87.66%
<b>分野10 消防・救急体制の充実</b>						
	1	消防力の強化				
		消防庁舎整備改修事業	1~2、4~6	消		
		消防庁舎整備改修事業(落部出張所)	4~6	消		
		消防格納所整備改修事業	2~3、5~6	消	32,976	相沼地区消防格納庫整備
		消防車両等整備事業	30~4	消	35,702	西分団ポンプ車 購入
		消防通信施設・設備整備事業	30、2~6	消	76,242	第2サーバー室エアコン 購入 署活系携帯無線機5台 購入、N ET119整備 119通信受付指令設備 更新
		消防水利整備事業	全期	消	29,645	消火栓 取替2基 耐震性貯水槽40m <sup>3</sup> 型2基
		消防職員用被服更新事業	30~4、6	消	1,470	夏制服46着 購入
		消防職員安全装備品整備事業	30、1、3~6	消	212	革手袋55双 購入
		消防団員用被服更新事業	1~2、5~6	消		
		消防団員安全装備品整備事業	30~2、5~6	消		
		消防団員健康診断事業	全期	消	743	八雲、熊石消防団21名実施
	2	救急・救助の強化、充実				
		高規格救急車等整備事業	1、4、6	消		
		救急・救助資機材整備事業	全期	消	3,541	空気ボンベ5本購入 山岳救助資機材一式 購入
	3	町民参画による火災予防等の推進				
		防火対策事業	2	消		
<b>分野11 防災体制の強化</b>						
	1	河川や排水路の整備及び維持管理				
		ハシノスベツ川護岸整備事業	1~3	建	18,392	護岸整備 L=67m
		本町下水路改修事業	4	建		
	2	治山事業の推進				
		治山事業	全期	農	1,102	下刈6.48ha
		治山施設維持補修事業	全期	産	1,439	西浜・相沼地区治山施設修繕 治山施設維持管理費

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		相沼地区地すべり防止区域維持管理事業	全期	産	224	施設維持管理、施設機能確認
3		海岸施設の整備				
4		地域防災体制の整備				
		熊石地域総合ハザードマップ作成事業	1	地		
		総合ハザードマップ作成事業	4	総		
		災害備蓄品整備事業	全期	総	2,114	感染対策用品(ペーパータオル他)
		防災備蓄庫整備事業	30	落		
		全国瞬時警報システム整備事業(八雲地域)	30	総		
		全国瞬時警報システム整備事業(熊石地域)	30	地		
		北海道総合行政情報ネットワーク更新事業	2	総		
5		地域の防災力の強化				

## 第2章 八雲の豊かな資源を活用した産業振興

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
分野1 農林業の振興						
1		農業・農村を支える多様な担い手の育成・確保				
		酪農ヘルパー事業	30~5	農	3,000	運営費補助
		新規就農支援資金貸付事業	30~5	農	5,000	R3年度新規就農者 1人
		農業次世代人材投資事業(旧青年就農給付金事業)	30~6	農	13,500	交付対象者5組 7人
		農業研修者家賃助成事業	1~3	農	480	助成対象者 2人
		研修牧場施設整備事業	1~3	農	324,710	施設整備費補助
2		農業基盤の整備				
		農地集積協力金事業	全期	農	1,489	交付対象者 3人
		育成牧場整備事業	1	農		
		岡山県有地購入事業	2	農		
		中山間地域総合整備事業	30~5	農	48,638	生産基盤、生活環境施設整備
		道営草地畜産基盤整備事業(公共牧場型)八雲第1地区(育成牧場分)	1~2、4~5	農		
		道営草地畜産基盤整備事業(公共牧場型)八雲第1地区(一般農家分)	1~5	農	14,365	草地改良、造成整備
		農地耕作条件改善事業(東野、落部)	30~1	農		
		折戸野々畑線排水整備事業	4~6	産		
3		クリーン農業の推進				
		バイオマス産業都市構想策定事業	1	農		
		多面的機能支払交付金事業	全期	農	19,054	対象5地域活動費交付
		中山間地域等直接支払事業	全期	農	8,676	対象2地域活動費交付
4		流通対策、産地・ブランド対策の推進				
		畜産振興事業(北里八雲牛生産拡大支援事業)	30~1	農		
		新規作物導入検討事業	3~6	農	2,222	醸造用ぶどう苗300本定植
		農作物有害鳥獣被害防止対策推進事業	4~6	農		
		乳製品工場誘致事業(仮称)	未定	農		
		活性化施設機械設備等改修事業	4	農		
5		地産地消の推進				
6		森林の整備				
		町有林一般造林事業	全期	農	43,970	植栽16.84ha、下刈72.85ha、保育間伐30.66ha、除伐3.68ha、被害跡地造林2.40ha
		町有林森林保護事業	全期	農	2,089	野ねずみ駆除207.12ha、油虫駆除36.52ha
		町有林自力造林事業	全期	農	3,913	下刈5.51ha、除間伐16.74ha
		町有林水源林造林事業	全期	農	9,174	下刈5.84ha、作業道新設2,083m
		町有林森林認証取得事業	全期	農	428	認証維持森林4,991ha
		町有林過年度災害復旧事業	1~2	農		
		受託災害復旧事業	30	農		
		森林GIS森林管理システム機能追加事業	30	農		
7		林業の振興				

第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		豊かな森づくり推進事業 (旧「未来につなぐ森づくり推進事業」)	全期	農	21,976	植栽76.81ha
		民有林造林推進事業	30~2	農		
		森林経営管理事業	1~5	農	15,279	私有林整備事業(下刈、保育間伐、枝打ち503.45ha)、林業現場見学会1回開催他
8		農道の整備と機能の保全				
		農道等維持補修事業	全期	農	486	農道、排水路補修整備
		基幹農道整備事業(農道保全)	30~1、4~6	農		
9		林道の計画的な整備及び点検並びに維持補修				
		林道維持補修事業	全期	農	1,023	除草、排水施設補修、清掃、支障木伐採他
		林道維持補修事業	全期	産	912	林道維持管理費(林道3路線)
		森林管理道常丹線開設事業(道営事業負担金)	30~2	農		
分野2 水産業の振興						
1		漁業生産基盤の整備				
		黒岩漁港水産基盤整備事業	30	水		
		漁港整備事業	3~4	水	5,223	落部漁港船揚場の整備に係る地元負担金
		コンブ礁造成事業	1~6	水	11,860	北海道が事業主体となり実施するコンブ礁造成事業に係る負担金
		熊石地域マリンビジョン計画推進事業	30~6	産	0	新型コロナウイルスにより事業休止
2		栽培・増養殖漁業等の振興と海洋資源との調和				
		ホタテ貝養殖漁業経営安定対策事業	全期	水	60,000	経営資金の預託金
		水産多面的機能発揮対策事業負担金	30~2	水		
		水産多面的機能発揮対策事業負担金	30~2	産		
		ホタテ養殖施設減災対策事業	30~2	水		
		ホタテ貝アイヌブランド化事業	3~5	水	98,564	日本海産ホタテ稚貝が噴火湾海域で健全に育成することが可能かの実証試験
		さけます養殖施設整備事業	1	水		
		沿岸漁業経営改善調査研究事業	30~3	水	4,256	漁協が実施する資源調査、経営改善調査に対する補助金
		噴火湾渡島海域漁業振興対策協議会負担金	全期	水	1,550	マツカワ等水産種苗の育成及び放流、沿岸漁場の資源保護対策に対する補助金
		ナマコ資源増大事業	4	水		
		なまこ資源増大事業	30~1	産		
		コンブ資源増大事業	6	水		
		日本海ニシン栽培漁業定着事業	30~6	産	1,767	ニシン種苗を100万尾放流。(檜山5町+八雲町)
		秋さけ資源増大対策事業	30~6	産	1,200	秋さけ資源増大対策事業(運営費)へ補助金。(檜山4町+八雲町)
		痩せウニ実入り向上試験事業	4	水		
		ウニ深浅移植事業	30~2	産		
		渡島管内さけます増殖事業協会負担金	4	水		
		ホタテ養殖漁場環境観測事業	4~5	水		
		日本海さけます増殖事業負担金 (旧「漁業協同組合経営安定対策補助金」)	30~3	産	666	さけ・ます増大対策。(ひやま5町+八雲町)
		檜山なまこ栽培漁業定着事業(広域事業)	30~6	産	5,000	なまこ種苗放流。6/7 166,700尾放流。
		熊石水産試験研究推進事業	全期	産	6,273	北大水産学部と魚類・ウニ・海藻類等の共同試験を実施。(継続中)
		熊石地域ホタテ養殖試験事業	30~1	産		
		北海道二海サーモン事業推進協議会補助金	3~4	水	618	同協議会においての各種調査費、広告宣伝費に対する補助金
		サーモン養殖試験事業	1~4	水	2,334	トラウトサーモンの養殖試験に対する補助金
		サーモン養殖試験事業	1~6	産	19,593	トラウトサーモンの海中養殖試験を実施。11/6 約650gの種苗を4,000尾生簀へ放流。20mサークル生簀1基整備。

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		サーモン養殖事業	1～3	産	0	
		サーモン種苗生産施設整備事業	4	産		
		水難救難事業補助金	全期	水	679	災害共済掛金及び救難所員の検診経費に係る補助金
		水難救難事業補助金	全期	産	14	災害共済掛金@500円×27名
	3	流通加工施設等の整備・充実				
		海洋深層水養殖試験事業	30～1	産		
4		海洋深層水取水施設維持管理				
		海洋深層水取水施設維持補修事業	5	産		
		海洋深層水管理用車両更新事業	3	産	1,964	管理用公用車1台更新
<b>分野3 商工業の振興</b>						
1		地域経済の活性化				
		消費喚起プレミアム商品券発行事業	1～2	商		
2		産業を支える基盤づくり				
		はびあ八雲運営費補助金	全期	商	8,882	・はびあ八雲の管理運営に係る経費補助
		中小企業育成資金貸付金	全期	商	163,000	・八雲町中小企業育成資金融資規則による 預託(八雲町商工会155,000千円、商工中金8,000千円) ・新規融資:5件 22,000千円 ・融資残高:12件 37,207千円
	中小企業等経営安定支援事業	2～5	商	5,866	・利子、保証料補給制度 ※保証料は初年度のみ の事業 利子件数:29件 利子補給金:5,307千円 保証料分: 559千円	
3		海洋深層水の利活用				
<b>分野4 観光の振興</b>						
1		観光・物産振興体制の強化				
		八雲観光物産協会補助金	全期	商	274	町内外における観光・物産のPR活動ほか
		八雲町情報交流物産館指定管理委託事業 (旧「持続可能な成長を目指した観光振興事業」)	30～2	商		
		八雲山車行列開催事業	全期	社	112	新型コロナにより事業縮小(ミニあんどん設置等)
		八雲さむいべや祭り開催事業	全期	社	0	新型コロナにより事業中止
		あわびの里フェスティバル推進事業	全期	産	0	コロナ感染拡大防止のため中止
		フェリー新航路開設検討事業(仮称)	未定	政		
2		地域資源を活用した商品開発の促進				
3		地域資源の保全と衛生管理の徹底				
		鉛川観光施設温泉水中ポンプ点検業務委託事業	30～6	商	3,597	・3号井ポンプ分解点検委託
		鉛川観光施設浄水設備保守点検業務委託事業	30～6	商	1,947	・ろ過機の洗浄 2回 ・膜ろ過交換
		鉛川レクリエーションセンター浄水施設修繕事業	30	商		
		わんぱくの森維持管理事業	全期	産	1,225	遊歩道、園内清掃及び保育、冬囲い等実施
		あわびの湯温泉施設取替修理事業	全期	産	1,210	揚湯ポンプ、循環ポンプの取替、排水整備実施
		ひらたない温泉あわびの湯指定管理業務委託事業	全期	産	2,800	施設の維持管理業務の年間委託料
		青少年旅行村維持補修事業	30～4	産	5,236	青少年旅行村管理棟外壁塗装 外6件
		熊石青少年旅行村ケビン建替事業	未定	産		
		ロングローラー滑り台更新事業	未定	産		
		あわびの湯駐車場除雪業務委託料	1～6	産	800	冬期間における駐車場の除雪費用
		子どもの国バッテリーカー購入事業	3	産	1,602	新車2台購入
		鮎川公衆トイレ解体事業	4	産		
4		情報発信力の充実				
		町内プロモーション事業	2、3、4、5	商	0	

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		熊石観光協会観光振興事業	4	産		
	5	都市との交流の推進				
分野5 雇用の創出と雇用環境の向上						
	1	企業誘致体制の再構築				
		企業誘致促進事業	全期	商	46,689	・八雲町設備投資促進奨励金:2件認定
		ウイスキー蒸留所誘致事業(仮称)	4~6	政		
	2	雇用機会の確保と雇用対策の強化				
		緊急就労対策事業	全期	商	12,179	【八雲地域】 ・町有施設内部塗装 雇用実人員4人(延29人) ・町有林学校枝打ち 雇用実人員25人(延689人) ・町有施設ワックス塗布 雇用実人員21人(延262人)
		緊急就労対策事業	全期	産	3,520	熊石雲石地内の町有林等の樹木の剪定、枝打ち業務費用
		産業人材確保・育成事業	30~1	商		
		奨学金償還支援事業	2~6	商	1,139	・認定件数:5件
		八雲町U・Iターン就職奨励金事業	4~6	商		
	3	勤労者福祉対策の充実				
		勤労者センター舗装整備事業	2、4	商		
分野6 再生可能エネルギーを活用した産業の振興						
	1	地域主導型、住民共同型の再生可能エネルギー導入の推進				
		再生可能エネルギー導入促進事業	全期	商	0	・新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施なし
	2	再生可能エネルギーを活用したまちづくり				
	3	温泉エネルギーの確保				
		平田内、大谷泉源湯温泉ポンプ点検修理事業	全期	産	18,381	平田内泉源11号、13号、15号井揚湯ポンプ等取替修理
		平田内泉源送湯管洗浄事業	全期	産	4,620	平田内送湯本管等計11カ所実施
		平田内泉源13号井中継棟小屋組修理事業	3	産	3,553	屋根(切妻屋根から片流れ屋根に修理)、壁面補修実施
		平田内泉源橋高架下送湯管漏水修理事業	4	産		
		上の湯地区既存井現況調査事業	1	商		

## 第3章 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

分野	健康づくりの促進					
	1	健康管理体制の充実				
		高齢者等インフルエンザ予防接種助成事業(一般会計分)	全期	保	4,120	接種者数 2,016人
		高齢者等インフルエンザ予防接種助成事業(国保会計分)	全期	住	1,463	国保加入の高齢者(65歳~74歳)に対し接種費用の一部を助成。
		新型コロナワクチン接種事業	3~4	保	109,242	1回目12,823人/2回目12,944人 3回目6,214人
		町民ドック事業	全期	保		
		簡易脳ドック検診事業(一般会計分)	全期	保	739	受診者数 91人
		簡易脳ドック検診事業(国保会計分)	全期	住	723	国保加入の40歳から70歳までの5歳毎の節目年齢の方に対し、検診費用の一部を助成。
		高齢者等肺炎球菌予防接種助成事業(一般会計分)	全期	保	712	接種者数 154人
		高齢者等肺炎球菌予防接種助成事業(国保会計分)	全期	住	242	国保加入の高齢者(65歳、70歳、74歳)に対し接種費用の一部を助成。
		住民検診事業	全期	保	776	受診者数 108人
		健康増進事業	全期	保	10,420	各種がん検診受診者数 2,316人
		がん検診推進事業	全期	保	138	無料クーポン受診者数 15人
		後期高齢者健康診査事業	全期	保	939	受診者数 103人

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容	
		高齢者保健事業と介護予防の一体的実施事業	全期	保	26,550	通いの場健康教室6回 健康状態不明者等訪問45件	
		風しん追加的対策事業	1～3	保	378	抗体検査者数53人/予防接種者数7人	
		妊婦健康診査事業	全期	保	6,537	実人数119人 / 延人数945人	
		妊婦外来医療費助成事業	全期	保	233	実人数71人 / 延人数200人	
	2	心と体の健康づくりの推進					
		健康増進計画策定事業	1	保			
		全町一日健康の集い事業	全期	保			
<b>分野2 医療体制の充実</b>							
	1	医療サービスの充実					
		医師確保対策事業	全期	総病	6,706	医師確保に係る大学医局訪問等	
		八雲総合病院要覧作成事業	2、4	総病			
		医療機械器具整備事業	全期	総病	92,197	関節鏡システム他21件	
		医療機械器具整備事業	全期	国病	21,340	多項目自動血球分析装置、レセプト電 算処理システム購入	
		施設整備事業	1～2	総病			
		冷房整備事業(南棟・中央棟・サービス棟)	30～1	総病			
		院内保育所冷房設備購入事業	4	総病			
		東棟2階トイレ改修事業	1	総病			
		東棟給湯管改修事業	4	総病			
		情報系パソコン更新事業	1	総病			
		病院案内看板新規設置事業	30	総病			
		車両整備事業	30～1、4～5	総病			
		院内ネットワーク機器更新事業	2～4	総病	24,750	ネットワーク機器	
		情報系システム機器更新事業	2	総病			
		精神科訪問診療事業	2	総病			
		院内エアコン整備事業	4	国病			
		熊石国保病院建替事業 (旧「国保病院基本構想・基本計画策定事業」)	未定	国病			
		2	地域医療の充実				
			医師派遣事業	全期	総病	3,911	近隣病院等への医師派遣
			無医地区巡回診療事業	全期	総病	10,124	近隣町への巡回診療の実施
			道南ドクターヘリ運航事業	全期	保	2,350	利用回数 35件
			落部歯科診療所整備事業	全期	保	514	プチクレーブ修繕1台、エアコン交換1 台、LED照明器具修繕3台
			熊石歯科診療所整備事業	全期	住サ	912	施設設備の整備
		3	病院経営体質の強化				
			電子カルテシステム等更新事業	全期	総病	1,617	電子カルテ用端末6台
経営管理システム導入事業	全期		総病	1,100	システム保守		
財務会計システム更新事業	2		総病				
医療費自動精算器導入事業	全期		総病	396	保守		
患者輸送バス維持管理事業	全期		住サ	4,240	維持管理		
4	国民健康保険事業の安定化						
	医療費適正化対策事業	全期	住	3,461	レセプト点検を充実させることで医療 機関からの請求誤りを発見し、医療費 の適正支出を図っている。		
	保険税収納率向上対策事業	全期	財	2,525	収納対策の充実(差押の強化:69件、 夜間・休日窓口の実施:計4日間)		
	健康づくり推進事業	全期	住	696	疾病予防や健康保持を目的とした各 種健康教室や講演会を開催。		
		特定健康診査事業(特定健診・特定保健指導)	全期	住	13,454	40歳から74歳までの国保加入者を対 象に、生活習慣病予防のための特定 健診及び特定保健指導を実施。	
<b>分野3 地域福祉の促進</b>							
	1	地域福祉活動の強化					
		ボランティア活動の推進					

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
<b>分野4 高齢者福祉の推進</b>						
1		介護保険事業の推進				
		介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定事業	2、5	保		
		渡島北部介護認定審査会共同設置事業	全期	保	3,278	審査会57回開催
		認定調査事業	全期	保	9,295	認定調査(委託)655件 主治医意見書1,027件
		介護予防・日常生活支援総合事業	全期	保	23,662	訪問サービス3,459回 通所サービス2,412回
		介護保険サービスに係る利用者負担額軽減制度事業	全期	保	7,234	負担軽減への補助72名分
		訪問介護員活動車整備事業	30	保		
		介護従事者確保推進事業	2~4	保	2,583	介護福祉士実務者研修開催 就職支援貸付金4件
		介護予防・生活支援サービス事業	全期	保・住サ	3,209	給食サービス2,344回
		居宅介護支援事業	全期	住サ	7,861	ケアプラン作成件数 691件
		介護予防支援事業	全期	保・住サ	21,182	介護予防サービス計画作成1,311件
		介護予防ケアマネジメント事業	全期	保・住サ	523	介護予防サービス計画作成627件
		総合相談・権利擁護事業	全期	保・住サ	12,130	相談受付件数201件
		包括的・継続的ケアマネジメント事業	全期	保・住サ	9,566	地域ケア会議15回、ケアマネ支援2件
		くまいし訪問介護事業所運営補助事業	3~6	住サ	2,500	運営費の補助
		熊石デイサービスセンター運営事業	全期	住サ	45,878	延べ利用者数 2,832人
		熊石デイサービスセンター送迎用福祉車両購入事業	2	住サ		
		訪問介護サービス事業	全期	保	23,051	利用実人員 介護58人 障害7人 延利用者数 介護2,219人 障害328人
		家族介護継続支援事業	全期	保	100	家族慰労金1件
		特別養護老人ホーム厚生園増床整備補助金	30~1	保		
2		安心して暮らせる地域づくり				
		生活支援体制整備事業	全期	保・住サ	11,608	コーディネーター2名配置、協議体4回
		緊急通報体制等整備事業	全期	保	2,142	新規設置台数16台(八雲14台、熊石2台) R4.3.31現在設置台数130台(八雲100台、熊石30台)
		シルバープラザ非常灯修繕事業	3	保	5,280	非常灯取替修繕
		認知症総合支援事業	全期	保	9,586	認知症支援2名、認知症カフェ:9回
		成年後見制度利用支援事業	全期	保	242	申立0件、報酬助成2件
		一般介護予防事業	全期	保・住サ	2,152	介護予防教室128回、通いの場支援
		地域自立生活支援事業	全期	保	3,948	給食サービス1,796回
		冬期福祉手当給付事業	全期	保	4,495	支給人数444人 支給額4,440,000円
		福祉タクシー助成事業	全期	保	5,168	実利用者数 八雲37人 熊石65人 延利用者数 八雲372人 熊石854人 利用枚数49,276枚 助成額4,927,600円
		移送サービス事業	全期	保・住サ	3,536	実利用者数 八雲37人 熊石65人 延利用者数 八雲372人 熊石854人
		高齢者等除雪費助成金交付事業	全期	保・住サ	267	実利用者数 八雲17人 熊石3人 延除雪回数 八雲173回 熊石114回
		独り暮らし高齢者訪問事業	全期	住サ	1,073	独居高齢者訪問(業務委託)
		寝たきり老人等在宅介護支援手当支給事業	全期	保		
		生きがいデイサービス運営委託事業	全期	保	0	実績なし
		紙おむつ利用券給付事業	全期	保	300	利用者数9人 給付枚数69枚 利用枚数60枚
3		生きがいづくり活動の強化				
		高齢者スポーツ施設利用助成事業	全期	保	541	助成人数183人(パークゴルフ164人 プール18人 スキー1人)助成額540,890円
		高齢者等入浴料助成事業	全期	保・住サ	3,532	交付人数1,463人 交付枚数33,412枚 利用枚数16,539枚 助成額3,307,800円
		福祉バス購入事業	4	保		
		シルバープラザ高圧引込開閉器及び高圧引込ケーブル更新事業	6	保		

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
<b>分野5 子ども・子育て支援の強化</b>						
1		子育て支援の充実				
		子ども・子育て支援事業計画策定事業	30、1、5、6	住		
		地域子育て支援拠点事業 (旧「子育て支援センター運営事業」)	全期	住	13,941	乳幼児・保護者の交流の場確保等
		利用者支援事業 (旧「子育て支援センター運営事業」)	全期	住	8,467	子育て支援の情報提供等
		子ども医療費助成事業(町単独助成事業分) (旧「乳幼児医療費助成事業(町単独助成事業分)」)	全期	住	26,552	乳幼児医療給付事業については、町単独事業として18歳までの子どもに係る医療費を所得制限を設けず無料としている。
2		多様な保育機能の充実				
		障がい児保育事業	全期	住	4,444	障がい児を受け入れている、2か所の保育所等へ人件費等を補助。
		保育園整備事業	30、1、3、4	住サ	297	アスベスト含有調査
		子育て世帯支援事業 (保育料軽減(北海道多子軽減含む))	全期	住	18,769	0～2歳の課税世帯における保育所等利用者負担金を30%軽減。また、多子世帯の0～2歳児を無償化。
3		児童の健全育成				
		放課後児童健全育成事業	全期	住	35,141	3か所の学童保育所に対し、運営費を補助。
		放課後子ども教室運営事業	2～5	住サ	1,472	延べ利用者2,669名、各種教室21回
4		ひとり親家庭への支援				
<b>分野6 障がい者福祉の推進</b>						
1		地域における生活支援				
		日常生活用具等給付事業	全期	保	5,493	601件給付
		障がい者福祉システム移行事業	3	保	4,972	障がい福祉システム導入
2		ノーマライゼーションの推進				
		障害者計画・障害福祉計画策定事業	1、2、4、5	保		
		意思疎通支援事業	全期	保	23	基本料金
		町広報誌等音声化事業	全期	保	56	利用者5人
		障害認定審査会設置事業	全期	保	666	12回実施
		障がい者に対する理解促進	全期	保	87	動画配信等
		成年後見制度利用支援事業	全期	保	8	町長申し立て1件
3		自立と社会参加の促進				
		移動支援事業(車両移動支援)	全期	保	5	2回実施
		自動車改造助成事業	全期	保	0	実績なし
		移動支援事業(個別移動支援)	全期	保	71	2名利用
		障がい児通所等給付事業	全期	保	87,016	令和3年度末時点利用者42人
		重度障がい児通学費助成事業	全期	保	0	実績なし
		子ども発達支援センター運営事業	全期	住	3,255	発達に関する各種相談・情報提供、療育、各機関連携・個別支援会議、カラフルの推進・配付、療育講演会等

## 第4章 ふるさとを築く 教育の充実と文化・スポーツの振興

<b>分野1 学校教育の充実</b>						
1		教育環境の充実				
		落部小学校大規模改修事業	1～2	学		
		小学校放送設備改修事業	4～5	学		
		中学校電気設備改修事業	30、1、4	学・熊教		
		八雲中学校大規模改修事業	2～5	学	8,591	実施設計業務委託
		八雲小学校屋内運動場女子トイレ改修事業	2	学		
		小学校グランド改修事業	1	熊教		
		熊石小学校校舎等大規模改造事業	30	熊教		
		熊石中学校屋内運動場屋根葺替改修事業	1	熊教		
		校舎等解体事業	2、5	熊教		

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
		教員住宅浴室改修事業	30~1	学		
		教員住宅物置更新事業	30	学		
		教員住宅建設事業	1	学		
		教員住宅外壁等改修事業	3	学	7,051	三杉町教員住宅(1棟4戸)
		教員住宅外壁等改修事業	1、4	熊教		
		教員住宅解体事業	30~1、4	熊教		
		スクールバス更新事業	5	学		
2		教育内容の充実				
		小中一貫型コミュニティスクール導入事業	全期	学	144	4中学校区(落部、野田生、八雲、熊石)
		外国語指導助手(ALT)配置事業	全期	学	8,347	ALT2名を町内小中学校に配置(6月まで新型コロナウイルスの影響による来日延期のため1名で対応)
		小牧市・八雲町児童学習交流事業	30~1、4	学		
		GIGAスクールネットワーク整備事業【小学校】	2	学		
		GIGAスクールネットワーク整備事業【中学校】	2	学		
		小学校ICT教材整備事業	3~6	学	1,299	小学校7校 AIドリル導入
		中学校ICT教材整備事業	3~6	学	871	中学校4校 AIドリル導入
		小学校教材教具整備事業	全期	学	2,037	小学校教材教具購入
		中学校教材教具整備事業	全期	学	971	中学校教材教具購入
		八雲町教育推進計画策定事業	3、4	学	40	計画策定委員報酬 16名
		社会科副読本「わたしたちの町八雲」郷土学習資料編集事業	30~1、4~5	学		
		特別支援教育支援員配置事業	全期	学	14,775	小学校6校、中学校4校 17名を配置
		読解力向上推進事業	3~5	学	1,210	リーディングスキルテスト、学びセミナー実施
3		安心できる学校給食の提供				
		学校給食センター改築事業	30~2	給		
		学校給食配送車整備事業	30~1	給		
		熊石学校給食センター解体事業	3	熊教	26,035	鉄骨造平屋建A=309.50㎡
		子育て世帯支援事業(学校給食費無償化)	全期	給	45,680	小学校28,209 中学校17,471
4		教育支援の充実				
		地域高校就学支援事業	全期	政	4,896	通学費・進路指導費の補助
分野2 生涯学習の推進						
1		生涯学習機会の充実				
		八雲町平和学習事業開催事業	全期	社	0	新型コロナにより事業中止
		公民館講座「木彫り熊講座」開設事業	全期	社	294	40日間、延べ260名受講
		社会教育講座等ICT機器導入事業	1	社		
2		生涯学習・社会教育施設等の整備				
3		図書館の充実				
		図書館新館20周年記念事業	1	図		
		空調設備改修事業	2	図		
		図書館業務用バン型車両更新事業	3	図	3,367	ハイエースバン1台更新(購入額3,164)
		コピー・FAX複合機更新事業	5	図		
分野3 スポーツの推進						
1		社会体育施設の改修整備				
		総合体育館備品更新事業(トレーニング機器)	4	体		
		総合体育館事務室非常用放送設備更新事業	30	体		
		総合体育館温水設備等改修事業	6	体		
		総合体育館トイレ改修事業	30	体		
		総合体育館アリーナ床再塗装事業	1	体		
		大新スポーツ公園スポーツトラクター更新事業	30	体		
		大新スポーツ公園整備事業	4~5	体		
		運動公園スポーツトラクター更新事業	1	体		
		運動公園整備事業	3~6	体	429	ソフトボール場側トイレ洋式化

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容	
1		落部多目的グラウンド整備事業	3	体	433	防球フェンス設置	
		スキー場ペアリフト主要機器等整備事業	30~2	体			
		温水プール設備改修事業	30~5	体	682	ろ過ポンプ取替え(幼児・ジャグジー)	
		温水プールトイレブースおよび便器整備事業	3	体	1,518	トイレブース修繕およびトイレ洋式化(1ヶ所)	
		温水プール備品整備事業	30~1、3	体	832	水中自動掃除機購入	
	2		体育・スポーツ活動の充実				
			北海道日本ハムファイターズ応援大使事業	30	体		
			北海道日本ハムファイターズ八雲後援会支援事業	4	体		
			各種スポーツ教室開催事業	3	体	277	レバンガ北海道によるバスケット教室
	3		全道・全国大会出場選手等派遣助成				
	4		スポーツ指導者・団体等活動支援				
分野4 文化財の保存・活用							
1		芸術、文化活動の推進					
		2 文化財の保存と活用					
		新八雲町史編さん事業	1~4	社	2,762	町史編さん業務、年表冊子発行	
		尾張徳川家所有木彫り熊とアイヌ民具の寄託・整理及び展示事業	30	社			
		アイヌ文化財保存活用事業	5	社			
		木彫り熊デザイングッズ企画開発事業	4	社			
		熊石歴史記念館改修事業	2	熊教			

## 第5章 八雲の自立を実現する協働と行財政運営

分野1 コミュニティ活動と交流の促進						
1		町内会活動の強化				
		2 地域会館の整備と統廃合の推進				
		地域会館整備事業	全期	政	10,621	山越中央会館屋根葺替、浜松生活改善センター屋根塗装
		東部生活館改修工事事業	2	住		
		落部町民センター改修事業	30	落		
		落部町民センター道道厚沢部線改良補償改修事業	30	落		
		地域会館等建替事業	2、3、5、6	地	108,980	相沼和みの家
		地域会館等解体事業	5	地		
		3 地域間交流の促進				
		小牧市・八雲町交流30周年記念事業	30	総		
		4 国際交流の推進				
		5 移住・定住の推進				
		移住定住促進事業	全期	30~3	50	北海道移住交流促進協議会負担金
		地域おこし協力隊員配置事業	全期	政	55,082	協力隊 17人配置
		6 学術機関との連携				
		域学連携推進事業(札幌大谷大学)	30、1、4	地		
		域学連携推進事業(上智大学)	全期	商	0	・新型コロナウイルス感染症の影響により事業実施なし
域学連携推進事業(北里大学)	全期	農				
域学連携推進事業(日本大学)	全期	農				
他						
八雲町まちづくりPR事業	1~6	政	3,631	八雲フェア開催、町PR用ノベルティ購入		
分野2 住民参画の推進						
1		協働のまちづくりの推進				
		地域コミュニティ助成事業	全期	政	5,177	町内会活動への助成
		2 青少年健全育成の推進				
		3 男女共同参画意識の高揚				
4 男女共同参画推進体制の整備						

## 第2期八雲町総合計画実施計画 令和3年度事業費・実施内容

(単位:千円)

分野	主要	事務事業名	事業期間	担当 部局	R3年度 事業費	令和3年度事業内容
<b>分野3 情報・広報体制の充実</b>						
1		未普及地域へのブロードバンド環境整備の研究 高度無線環境整備推進事業	3	政	236,863	町内光ファイバ設備整備
2		町民の情報処理能力向上へ向けた支援				
3		広報の充実 ホームページ再構築事業	30	政		
4		町民と議会との情報共有の充実 議会中継システム導入事業	30	議		
<b>分野4 行財政の強化</b>						
1		効率的な行政経営の推進 八雲みらいプロデュース会議運営事業	1~3	政		
		番号制度対応システム改修事業	30	住		
		税務関連システム改修事業	4	財		
		総合行政システム端末機器更新事業	30	政		
		自治体情報セキュリティ強化対策事業	全期	政	1,252	自治体情報セキュリティ強化対策
		情報系ネットワークサーバ機器更新事業	1、5	政		
		戸籍総合システム機器更新事業	3	住	20,350	戸籍サーバ、ソフトウェア等の更新
2		職員の資質向上 職員交流・派遣事業	30~2、4、5	総		
3		安定した財政の推進				
4		ふるさと応援寄附金の推進 ふるさと応援寄附金奨励事業	全期	政	1,303,202	寄附金 2,521百万円
		企業版ふるさと応援寄附金奨励事業	2~6	政	7,591	寄附金 43,500千円
<b>分野5 広域行政の推進</b>						
1		広域行政の推進 北渡島檜山4町地域連携推進事業	全期	政	310	青函DCへの参加
<b>総 合 計</b>					<b>4,629,521</b>	

### 担当部局の表記

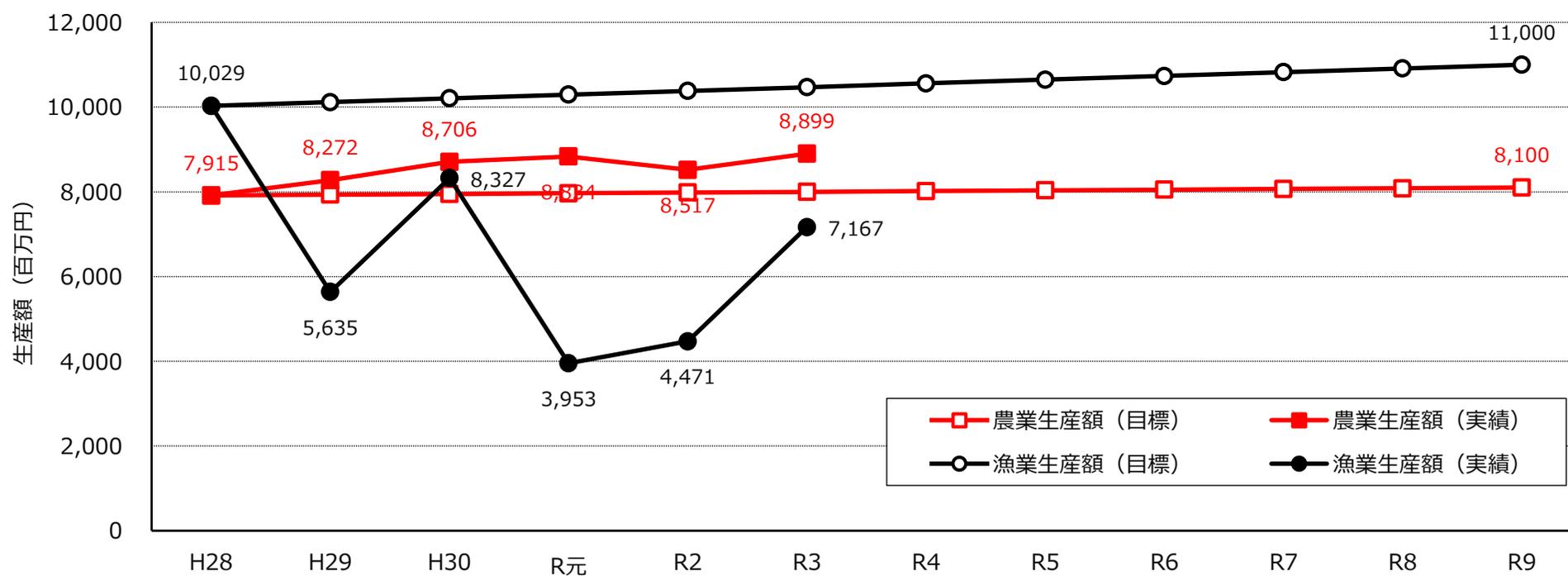
総：総務課	建：建設課	商：商工観光労政課	学：学校教育課	消：消防本部
政：政策推進課	公：公園緑地推進室	落：落部支所	社：社会教育課	総病：総合病院
新：新幹線推進室	環：環境水道課	議：議会事務局	体：体育課	国病：国保病院
財：財務課	農：農林課	地：地域振興課	図：図書館	
住：住民生活課	農委：農業委員会	住サ：住民サービス課	給：学校給食センター	
保：保健福祉課	水：水産課	産：産業課	熊教：熊石教育事務所	

## 戦略プロジェクトの数値目標

資料1-3

### ①八雲町自立促進プロジェクト

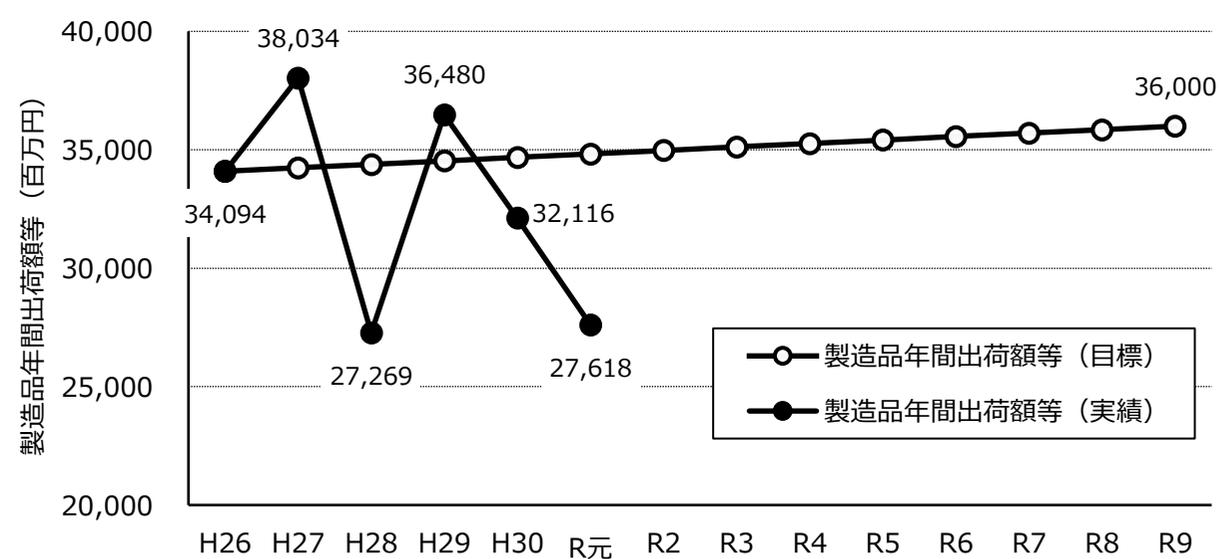
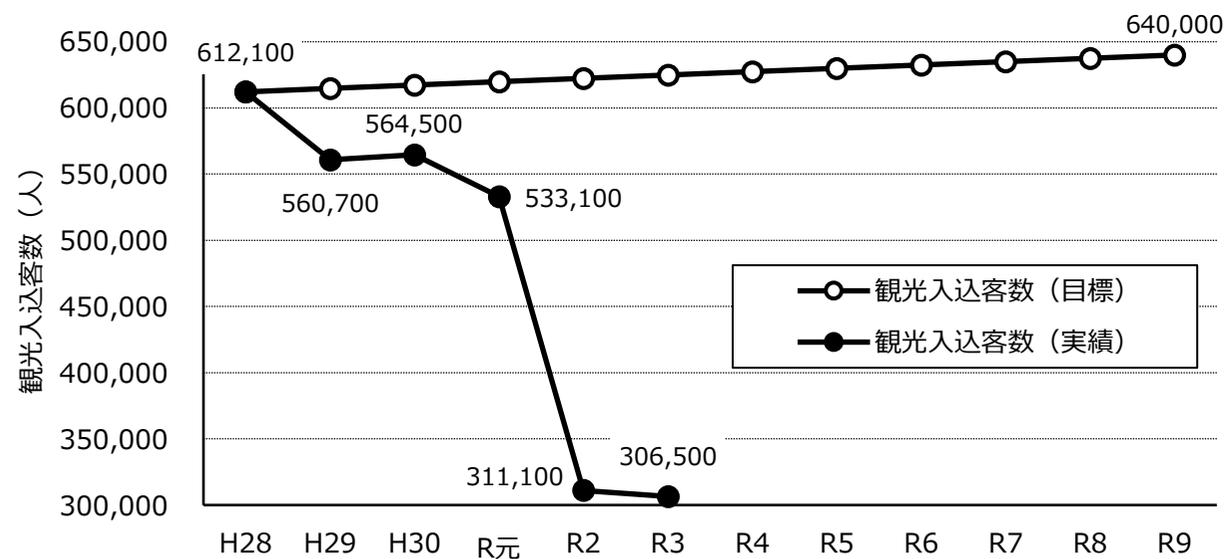
目標指標	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	単位
農業生産額（目標）	7,915	7,932	7,949	7,965	7,982	7,999	8,016	8,033	8,050	8,066	8,083	8,100	百万円
農業生産額（実績）	7,915	8,272	8,706	8,834	8,517	8,899							百万円
漁業生産額（目標）	10,029	10,117	10,206	10,294	10,382	10,470	10,559	10,647	10,735	10,823	10,912	11,000	百万円
漁業生産額（実績）	10,029	5,635	8,327	3,953	4,471	7,167							百万円



## 戦略プロジェクトの数値目標

### ②道南北部中心プロジェクト

目標指標	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	単位
昼夜間人口比率（目標）		100.31					100.37					100.44		100.50	%
昼夜間人口比率（実績）		100.31					101.48								%
観光入込客数（目標）			612,100	614,636	617,173	619,709	622,245	624,782	627,318	629,855	632,391	634,927	637,464	640,000	人
観光入込客数（実績）			612,100	560,700	564,500	533,100	311,100	306,500							人
製造品年間出荷額等（目標）	34,094	34,241	34,387	34,534	34,680	34,827	34,974	35,120	35,267	35,414	35,560	35,707	35,853	36,000	百万円
製造品年間出荷額等（実績）	34,094	38,034	27,269	36,480	32,116	27,618									百万円



## 第2期八雲町総合計画 令和3年度の進捗状況に対する評価

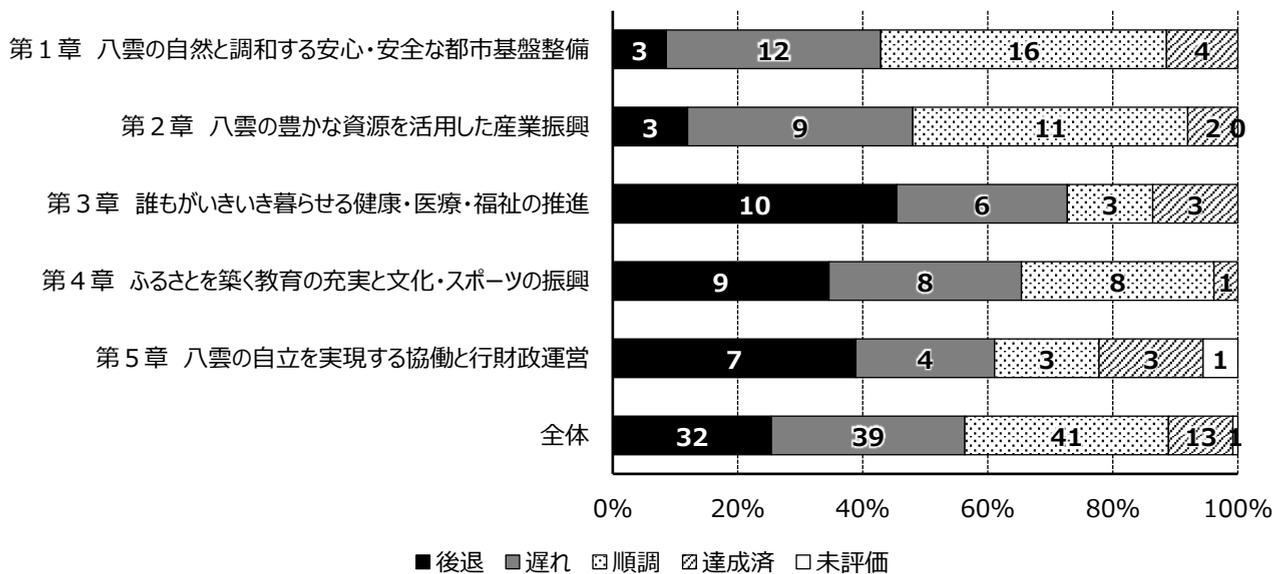
		後退	遅れ	順調	達成済	未評価	KPI数
第1章	八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備	3 8.6%	12 34.3%	16 45.7%	4 11.4%	0 0.0%	35 100%
第2章	八雲の豊かな資源を活用した産業振興	3 12.0%	9 36.0%	11 44.0%	2 8.0%	0 0.0%	25 100%
第3章	誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進	10 45.5%	6 27.3%	3 13.6%	3 13.6%	0 0.0%	22 100%
第4章	ふるさとを築く教育の充実と文化・スポーツの振興	9 34.6%	8 30.8%	8 30.8%	1 3.8%	0 0.0%	26 100%
第5章	八雲の自立を実現する協働と行財政運営	7 38.9%	4 22.2%	3 16.7%	3 16.7%	1 5.6%	18 100%
合 計		32 25.4%	39 31.0%	41 32.5%	13 10.3%	1 0.8%	126 100%

【凡例】 後退：KPIの数値が前年度より一定程度後退している。

遅れ：KPIの数値は前年度より前進しているが、進み方が遅い。

順調：R4年度目標値に向け、KPIの数値が順調に推移している。

達成済：R4年度の目標値が既に達成している（累計のみ）。



## 第1章 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

### 1 土地利用の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
地籍調査実施地区	字	33	36	33	33	34	35		順調		総
町有地処分（累計）	件	3	8	14	14	18	23		達成済		総

### 2 自然環境の保全

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
町有施設CO <sup>2</sup> 削減率	%	0.0	10.0	0.3	7.1	14.4	14.7		順調		政
捕獲従事者（累計）	人	51	60	56	60	60	62		達成済		農
新規狩猟者	人/年	3	5	5	4	0	3		順調		農

### 3 市街地及び集落の環境整備

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
空家等の活用促進（累計）	件	0	15	0	1	1	1		遅れ	空家の有効活用を図るため、今後も継続して実施する。令和4年度から制度内容の見直しを実施。	建
特定空家等の解消（累計）	戸	0	10	0	1	1	1		遅れ	町民の安全で安心な生活環境を確保し、所有者等の自発的な除却を促進するため、今後も継続して実施。令和3年度から、特定空家等の発生予防のため、空家解体補助を実施。	建
町営住宅の建替（累計）	戸	10	45	0	10	25	25		順調		建
町営住宅外壁等改修	戸/年	27	19	4	0	0	0		順調		建
防衛施設周辺整備等要望活動	回/年	2	2	1	3	0	0		遅れ	新型コロナにより全ての要望活動が書面要望に切り替えられたため、実績ゼロ。	政

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

4 道路網の整備

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
町道改良整備及び維持改修（累計）	路線	6	30	6	12	19	26		順調		建
橋梁長寿命化修繕（累計）	橋	4	33	10	12	16	23		順調		建
橋梁定期点検（2巡目累計）	橋	0	174	0	17	48	45		順調		建
町道除雪延長	km	488.4	488.4	481.8	481.7	481.7	481.7		順調		建

5 交通体系の整備

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
バス路線の維持	路線/年	4	4	4	4	4	5		順調		政
新幹線整備促進等要望活動	回/年	4	5	2	3	3	3		遅れ	新型コロナウイルス感染症の影響により、中央省庁等への要望活動が進んでいない。	新

6 上・下水道の整備

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
水道普及率	%	95.6	95.7	96.2	95.8	95.6	95.7		達成済		環
水洗化率	%	91.9	93.0	89.4	90.6	91.2	91.4		順調		環
合併処理浄化槽の設置助成（累計）	基	162	210	178	183	188	195		順調		環

7 ごみ処理等の環境整備

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
資源ごみ排出量（八雲地域）	t/年	1,080	1,000	1,215	1,170	976	972		達成済		環
生ごみ排出量（八雲地域）	t/年	230	800	212	173	152	164		遅れ	コロナ禍での飲食店等の排出が減少していたが、微増となっている。	環

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

8 緑化・環境美化の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
協働による緑化の推進	%	70	80	70	75	75	75		順調		公
ひまわりの種配布	袋/年	1,955	2,500	2,178	1,867袋 12kg	1,776袋 18kg	1,996袋 12kg		順調		政
環境美化活動実施町内会	町内会	89	95	91	88	84	82		後退	コロナ禍による活動停滞が要因と判断	政

9 防犯・交通安全の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
消費者相談受付	件/年	29	25	31	36	35	44		後退	消費者への啓発・注意喚起等の実施結果が効果として反映されにくい。消費者意識に依存する。	政
街頭での交通安全啓発活動	回/年	25	30	24	21	11	17		遅れ	コロナウイルス感染症の流行によりイベント等の回数が減ったため実施回数が減少	総
交通安全教室開催	回/年	42	50	34	30	12	13		遅れ	コロナウイルス感染症の流行により開催依頼数が減ったため減少	総

10 消防・救急体制の充実

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
事業所の避難訓練の実施	回/年	117	130	118	127	99	107		遅れ	新型コロナにより事業所等への職員派遣を中止した為。	消
耐震性貯水槽の整備（累計）	基	2	13	5	7	9	11		順調		消
救急救命士再教育（延べ）	人	23	50	27	28	0	15		後退	新型コロナにより実習が実施できない時期があった為。	消
住宅用火災警報器設置率	%	80	90	82	85	85	85		遅れ	新型コロナにより住宅訪問による調査、設置促進を中止した為。	消

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

11 防災体制の強化

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
生活環境保全林下刈	ha/年	7.9	8.5	8.5	6.3	8.3	6.5		順調		農
災害時要援護者個別支援計画の策定町内会	町内会	5	10	7	7	7	7		遅れ	周知方法の強化、新型コロナ感染拡大に配慮しつつ 出前説明会の検討	保
災害備蓄品毛布整備（累計）	枚	3,879	5,400	3,979	3,979	3,979	3,979		遅れ	感染対策品を優先	総
防災訓練実施団体	団体	5	10	1	0	0	0		遅れ	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら検討	総

第2章 八雲の豊かな資源を活用した産業振興

1 農林業の振興

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
新規就農者（累計）	人	1	10	3	5	7	8		順調		農
経営耕地面積	ha	6,660	6,660	6,660	6,660	6,660	6,660		順調		農
農業法人化数（累計）	法人	11	16	13	14	17	19		順調		農
農家戸数	戸	142	112	142	142	127	127		順調		農
生乳生産量	t/年	42,666	49,105	40,259	42,568	43,820	45,221		順調		農
搾乳牛頭数	頭	5,597	5,665	5,278	5,279	5,078	5,766		順調		農
バイオガス発電施設（累計）	施設	2	5	3	4	4	4		順調		農
民有林の植栽面積	ha/年	63.08	70.00	93.23	95.10	79.21	76.81		順調		農
民有林の下刈面積	ha/年	565.00	600.00	513.47	450.33	426.83	435.45		順調		農

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

2 水産業の振興

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
漁獲量	t/年	19,617	30,300	25,558	13,801	18,671	23,223		順調		水
漁家戸数	戸	374	368	356	355	339	337		後退	高齢化等により減少傾向	水
新規就業者（累計）	人	8	14	7	11	15	20		達成済		水

3 商工業の振興

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
事業承継（累計）	件	0	22	0	0	0	0		遅れ	令和4年度以降制度設計を検討する	商
創業支援（累計）	件	0	1	0	0	1	1		達成済		商
町が関係する商談会等への出展（累計）	件	3	20	1	3	3	3		遅れ	産業関係団体いとの連携による取組方法を検討	商

4 観光の振興

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
観光消費単価（宿泊）	円	16,410	17,630	未調査	未調査	未調査	未調査		遅れ	取組方法の見直しと今後の方向性を検討	商
観光消費単価（日帰り）	円	1,692	2,360	未調査	未調査	未調査	未調査		遅れ	取組方法の見直しと今後の方向性を検討	商
宿泊客（延べ）	人	22,200	26,600	25,700	31,100	24,500	19,700		遅れ	新型コロナウイルス感染症による観光客減少	商
農作業体験受入団体	経営体/年	1	5	11	15	0	0		後退	新型コロナウイルス感染拡大の影響による	農
農作業体験者	人/年	76	200	52	159	0	0		後退	新型コロナウイルス感染拡大の影響による	農

5 雇用の創出と雇用環境の向上

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
企業立地または町外企業との連携協定締結（累計）	件	0	3	0	0	0	0		遅れ	取組方法の見直しと今後の方向性を検討	商
新規事業に対する支援（累計）	件	0	5	0	0	0	0		遅れ	創業支援同様制度設計を検討中	商

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

6 再生可能エネルギーを活用した産業の振興

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
再生可能エネルギーに関する町民への普及・啓発	回	5	5	0	4	0	0		遅れ	取組方法の見直しと今後の方向性を検討	商
町内における再生可能エネルギー導入	百万kwh	2.4	93	2.4	2.4	52.7	113.5		順調	再生可能エネルギー導入戦略による検証	商
町外からの立地企業との連携協定締結（累計）	件	0	2	0	0	0	0		遅れ	取組方法の見直しと今後の方向性を検討	商

第3章 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

1 健康づくりの促進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
胃がん検診受診率	%	6.2	6.8	7.6	7.4	6.2	6.0		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により、受診者者が減少	保
大腸がん検診受診率	%	12.2	13.4	7.1	6.4	5.1	5.4		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により、受診者者が減少	保
子宮がん検診受診率	%	11.4	12.5	10.2	10.5	9.9	9.2		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により、受診者者が減少	保
乳がん検診受診率	%	16.1	17.7	15.1	15.8	14.1	13.0		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により、受診者者が減少	保
基本健診受診率	%	19.8	21.8	14.8	14.0	7.4	9.8		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により、受診者者が減少	保
健康づくり教室	回/年	76	76	60	58	24	14		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により実施が困難となった	保
町民ドック受診者	人/年	555	570	546	537	0	0		後退	新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった	保

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

2 医療体制の充実

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
国民健康保険税収納率	%	94.1	96.6	94.3	91.6	93.5	94.5		遅れ	新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う飲食サービス業及び宿泊業並びに漁業従事者の所得減少、食料品等の価格高騰に伴う家計への影響等もあり、R4目標収納率には達していないものの、上昇傾向にある。	財
特定健康診査受診率	%	17.5	23.0	16.1	15.0	12.1	22.5		順調		住
病床稼働率（八雲総合病院）	%	76.4	80.0	75.9	79.0	70.7	71.3		遅れ	新型コロナウイルス感染症に伴う一般病床（中央棟6階）の閉鎖による減	総病
病床稼働率（熊石国保病院）	%	59.7	70.0	50.8	56.1	49.9	49.1		後退	R3年10月から新型コロナウイルス疑い患者用病床を設けたことによる減少	国病

3 地域福祉の促進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
ボランティア団体登録者	人/年	251	251	234	218	227	213		後退	ボランティア会員の高齢化に伴い横ばいの状態	住
安心ほっとネット取組町内会	町内会	72	80	61	61	64	66		遅れ	八雲地域のみ。微増だが遅れあり。	住

4 高齢者福祉の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
SOSネットワーク事前登録者（累計）	人	4	10	9	12	14	15		達成済		保
認知症サポーター（累計）	人	855	1,000	1,002	1,040	1,065	1,093		達成済		保
救急医療情報キット配布（累計）	セット	405	540	459	472	485	501		遅れ	周知方法の見直しを検討	保
総合相談受付	件/年	185	230	194	193	251	201		順調		保
介護予防教室参加者	人/年	242	330	237	375	107	51		後退	R2年度より集計方法の見直しを行ったこと及びコロナ禍による事業の中止	保

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

5 子ども・子育て支援の強化

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
地域子育て支援拠点利用者	人/年	1,078	1,000	1,345	1,511	1,152	684		遅れ	コロナ禍の為、申込者が減となった。	住
一時預かり利用者	人/年	1,208	1,000	462	608	673	350		遅れ	コロナ禍の為、申込者が減となった。	住

6 障がい者福祉の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
福祉的就労から一般就労への移行者（累計）	人	0	1	1	2	4	4		達成済		保
障害福祉サービス利用者のうち町内での利用率	%	54.0	62.0	58.5	64.7	61.5	61.5		順調		保

第4章 ふるさとを築く教育の充実と文化・スポーツの振興

1 学校教育の充実

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
地元食材活用	品目	7	10	14	14	12	12		順調		給
給食賄材料における町内からの購入割合	%	22.5	25	20.2	25.8	19.9	20.4		遅れ	町内業者の廃業等により、町外から購入せざるを得なくなったため。	給
教職員研修開催	回/年	15	20	19	19	14	18		順調		学
小中一貫型コミュニティ・スクール導入学校	校	0	12	12	12	12	11		達成済	学校数が減少したことによる減（100%導入済）	学

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

2 生涯学習の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
少年対象事業の参加者	人/年	1,039	1,000	924	849	758	966		順調		社
青年対象事業の参加者	人/年	305	300	232	169	44	220		遅れ	新型コロナの影響により事業数減少	社
成人対象事業の参加者	人/年	2,634	2,600	2,497	2,702	1,807	1,653		後退	新型コロナの影響により事業数減少	社
高齢者対象事業の参加者	人/年	886	800	740	600	136	168		遅れ	新型コロナの影響により事業数減少	社
家庭教育事業の参加者	人/年	137	100	85	71	75	29		後退	新型コロナの影響により事業数減少	社
図書貸出	冊/年	91,048	95,000	86,612	84,152	72,000	77,134		遅れ	コロナ初年度より利用回復傾向にあるが、人口減、年齢階層のシフト、コロナウイルス感染症対策に伴う利用制限等、来館・読書機会の抑制要因が混在しており、引き続き数値の維持・回復を念頭に読書推進活動を進める。	図
WEB公開予約（図書館）	件/年	280	400	415	442	767	654		順調	コロナ初年度の来館制限時にWeb予約の活用数が増加し、前年度は若干落ち着いたが現状維持が定着するよう次年度に繋げたい	図
読書感想文・感想画コンクール応募	人/年	246	320	413	372	275	233		後退	コロナウイルス感染症対策下において授業過程の安定化に苦慮されている中、各学校から支援を得られ、ハンデの中でも十分な応募数に恵まれたと捉える。	図

3 スポーツの推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
体育協会加盟団体	団体	19	20	19	19	19	19		順調		体
スポーツ少年団加盟団体	団体	13	13	12	12	11	10		後退	加入者、指導者減少による団体の減	体
スポーツ指導者講習会	回/年	1	1	0	0	0	1		順調		体
スポーツ合宿誘致団体	団体/年	26	40	20	18	0	1		遅れ	新型コロナウイルスの影響あり	体
各種スポーツ大会誘致	回/年	0	1	0	0	0	0		遅れ	新型コロナウイルスの影響あり	体
総合体育館利用者	人/年	52,679	52,000	46,689	35,020	23,666	22,986		後退	新型コロナウイルスの影響あり	体
温水プール利用者	人/年	27,427	27,000	22,034	19,284	6,695	9,339		遅れ	新型コロナウイルスの影響あり	体

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

4 文化財の保存・活用

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
文化団体連合会特別事業入場者	人/年	250	250	256	-	-	-		後退	新型コロナの影響により事業中止	社
町民文化祭参加団体・参加者	団体/年	53	53	54	50	15	5		後退	新型コロナの影響により事業数減少	社
町民文化祭参加団体・参加者	人/年	44	40	79	47	34	51		順調		社
郷土資料館施設入館者	人/年	5,661	8,000	5,220	5,718	3,925	3,408		後退	新型コロナの影響により入館者数減少	社
郷土資料館企画展・事業参加者	人/年	9,730	9,700	7,923	7,708	3,505	3,910		遅れ	新型コロナの影響により入館者数減少	社
梅村庭園入園者	人/年	7,063	7,000	7,161	7,680	6,097	5,907		後退	新型コロナの影響により入園者数減少	社
熊石歴史記念館入館者	人/年	479	470	429	387	196	693		順調		熊教

第5章 八雲の自立を実現する協働と行財政運営

1 コミュニティ活動と交流の促進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
町連協加入町内会	町内会	125	126	125	125	124	124		後退	単位町内会の解散による	政
町内会加入率	%	81.5	83.0	78.5	78.1	79.0	80.1		順調		政
地域会館管理棟数	棟	42	40	41	41	41	40		達成済		政
国際交流事業参加者	人/年	171	180	154	91	0	24		後退	新型コロナの影響により事業数減少	社
移住推進事業による移住者	人/年	2	5	0	1	0	0		遅れ	移住定住対策を抜本的に見直す必要がある。	政
学術機関との連携協定締結（累計）	件	2	3	4	4	4	4		達成済		政
地域おこし協力隊採用者	人/年	1	5	1	0	5	11		順調		政

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

2 住民参画の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
審議会等の公募委員の割合	%	4.9	8.0	3.0	3.1	3.5	3.9		遅れ	取組方法に改善の余地はない	政
審議会等の女性委員の割合	%	21.8	25.0	23.6	23.6	23.4	25.4		達成済		政

3 情報・広報体制の充実

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
出前説明会開催	回/年	57	60	21	21	14	6		後退	コロナ禍による影響が要因と判断	政
議会報告会参加者アンケート満足度	%	63	75	67	45	-	-		後退	新型コロナウイルスの影響により開催を見送った。 コロナ禍でも安全に開催し、内容の工夫が必要	議
一般会議開催	回/年	6	8	4	4	4	4		後退	積極的に開催を行う工夫が必要	議
町ホームページ閲覧	回/月	360,000	400,000	397,804	130,085	191,114	246,665			システム移行に伴い集計方法に変更が生じたため、 従前の数値と比較ができなくなった。	政

4 行財政の強化

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
現年分収納率（3税合計）	%	98.3	98.9	98.3	97.9	98.5	98.8		順調		財
ふるさと応援寄付金返礼品取扱店舗	店舗	35	40	43	42	21	25		遅れ	1年間で4社増やすことができたが、目標とは大きく 乖離している。興味を持っているが登録に至らない事 業者も複数あることから、引き続き働きかけていく。	政
職員研修の開催	回/年	26	33	26	36	18	18		後退	令和2年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大 防止のため研修自粛したことによる後退	総

第2期総合計画KPI進捗状況（令和3年度）

5 広域行政の推進

目標指標	単位	現状値	目標値	実績値					R3年度 評価	R3年度評価に対するコメント ※「達成済」「順調」の場合は記入不要	担当 部署
		H28年度	R4年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
定住自立圏協定事業	件	6	9	5	4	4	5		遅れ	八雲町が参加していない連携事業について、参加を検討する。	政
4町連携事業	件	6	9	9	6	2	1		後退	新型コロナ感染防止のため事業中止となり、後退したものの。	政



# 第2期八雲町人口ビジョン・総合戦略の概略

## 人口ビジョン・総合戦略とは…



- 「人口ビジョン」とは、自治体の長期的な人口推計をするとともに、増減要因を分析するもの。
- 「総合戦略」とは、人口ビジョンで分析した要因に基づいて立てる、人口減少対策に関する計画。
- 第2期は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間として、令和2年3月に策定。

## 第2期八雲町人口ビジョン



- 社人研準拠推計（2015年国勢調査）  
2060年 人口：5,078人 高齢化率：47.6%

【目標1】合計特殊出生率  
2018年 1.40 ⇒ 2030年 1.80 ⇒ 2040年 2.06

【目標2】人口の純移動数  
2018年 ▲86人 ⇒ 2040年 ±0人（均衡）

- 独自推計（目標1・2を達成と仮定）  
2060年 人口：9,150人 高齢化率：35.1%

## 第2期八雲町総合戦略



### 基本目標1 働く人をつくり、産業を活性化する

#### KGI

農業産出額 H29年 839千万円 ⇒ R6年 840千万円  
漁獲高 H29年 576千万円 ⇒ R6年 580千万円

#### 主な取組

- 研修牧場整備事業
- サーモン養殖試験事業
- ふるさと応援寄附金奨励事業 など



### 基本目標2 安心して子育てできるまちをつくる

#### KGI

合計特殊出生率 H30年 1.40 ⇒ R6年 1.58

#### 主な取組

- 妊婦健康診査事業
- 妊婦外来医療費助成事業
- 子育て世帯支援事業（保育料軽減、給食費無償化）など



### 基本目標3 人が移り住み定着してもらえるようまちの魅力を向上させる

#### KGI

転出超過低減 H30年 86人超過 ⇒ R6年 64人超過

#### 主な取組

- 奨学金償還支援事業
- 地域おこし協力隊配置事業
- 南北海道定住自立圏連携事業
- 学術機関や企業との連携 など



## 第2期八雲町総合戦略の進捗状況（令和3年度末時点）

## 基本目標1 産業を活性化し、働く人をつくる

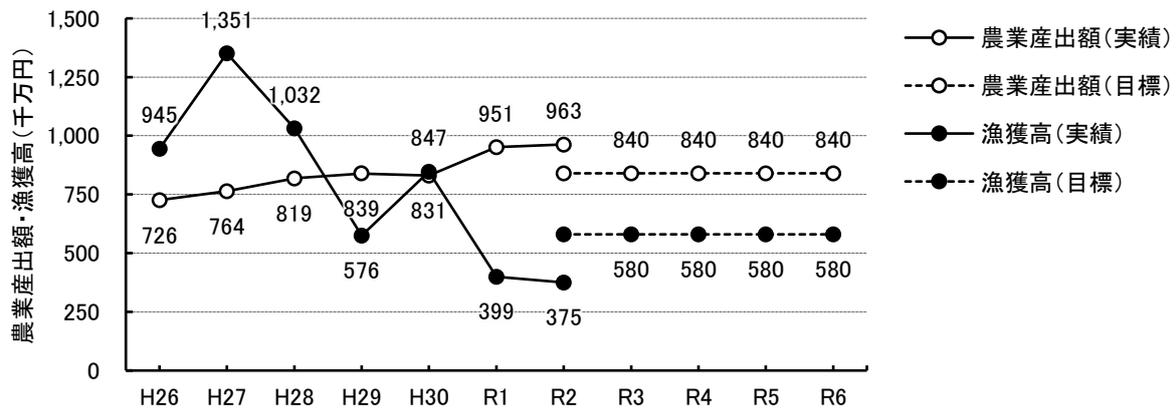
## ■ K G I : 農業産出額（千万円）

基準値	実績値							目標値
H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R6年
839	831	951	963					840

## ■ K G I : 漁獲高（千万円）

基準値	実績値							目標値
H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R6年
576	847	399	375					580

農業産出額、漁獲高の実績および目標



出典：市町村別農業産出額(推計)、北海道水産現勢

## 主要施策1. 産業を活性化する

## ■ K P I : サーモン試験養殖生産量

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R4年度
なし	なし	2,543kg	4,175kg				2,800kg

■ K P I : 檜山管内サケ回帰率

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
0.2%	0.3%	0.6%	0.7%				0.8%

■ K P I : ニシン漁獲数量

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
1.8t	1.0t	2.9t	6.2t				160t

■ K P I : ナマコ漁獲数量

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
4.1t	1.3t	3.6t	2.9t				4.1t

■ K P I : 植栽面積

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
93.23ha	95.10ha	79.21ha	76.81ha				100ha

■ K P I : ふるさと応援寄附金返礼品購入額

基準値	実績値						目標値
H26~H30 年度平均	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
607,549千円	690,190千円	535,510千円	739,390千円				540,000千円

■ K P I : 設備投資促進支援制度適用件数

基準値	実績値						目標値
H26~H30 年度合計	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2~6 年度合計
6件	2件	3件	3件				13件

## 主要施策2. 働く人をつくる

### ■ K P I : 新規酪農就農者等の人数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3~R6年度合計
なし			0人				5人

### ■ K P I : 新規就農者数

基準値	実績値						目標値
H20~H30年度合計	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2~R6年度合計
10組	12組	2組	3組				10組

### ■ K P I : 農業研修者数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
4組	7組	3組	5組				8組

### ■ K P I : 障がい者就労支援利用者数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
57人	59人	64人	65人				65人

### ■ K P I : 地域おこし協力隊配置人数

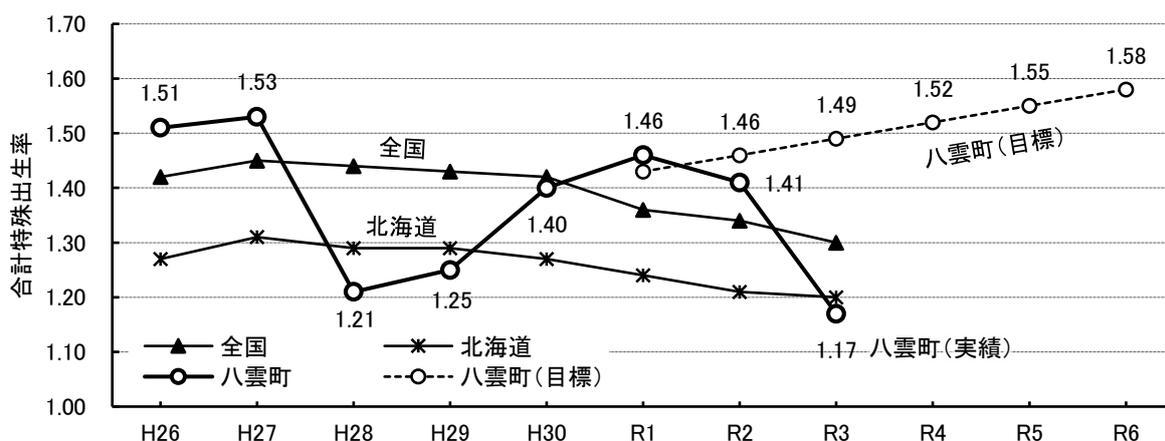
基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
5人	3人	6人	13人				10人

## 基本目標 2 安心して子育てできるまちをつくる

### ■ K G I : 合計特殊出生率

基準値	実績値						目標値
H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R6年
1.40 (105人)	1.46 (101人)	1.41 (89人)	1.17 (70人)				1.58

合計特殊出生率の推移



出典:人口動態統計、住民基本台帳

## 主要施策 1. 妊娠・出産への支援を充実する

### ■ K P I : 妊婦健康診査受診券利用回数 (一般健康診査)

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
1,261回	1,192回	996回	945回				1,216回

### ■ K P I : 妊婦健康診査受診券利用回数 (超音波検査)

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
626回	554回	521回	481回				626回

### ■ K P I : 妊婦外来医療費助成利用人数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
103人	97人	75人	71人				103人

■ K P I : 周産期医療体制の維持

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
1人	0人	0人	0人				0人

## 主要施策 2. 子育て支援を充実する

■ K P I : 小児科医師数

基準値	実績値						目標値
H30年度末	R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末	R6年度末
2人	2人	2人	2人				2人

■ K P I : 子育て世帯支援事業（保育料軽減（北海道多子軽減を含む））対象者数

基準値	実績値						目標値
R1.10.1	R2.10.1	R3.10.1	R4.10.1	R5.10.1	R6.10.1	R6.10.1	
110人	115人	115人				110人	

■ K P I : 待機児童数

基準値	実績値						目標値
H31.1.1	R2.1.1	R3.1.1	R4.1.1	R5.1.1	R6.1.1	R6.1.1	
0人	0人	0人	0人			0人	

■ K P I : 障がい児受入率

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
100%	100%	100%	100%				100%

■ K P I : 一時預かり事業（子育て支援センタークルミ）実施日数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
262日	269日	257日	253日				262日

■ K P I : 放課後児童クラブ施設数・定員数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
3か所 130人	3か所 129人	3か所 130人	3か所 130人				3か所 130人

■ K P I : 障害児通所等給付決定人数

基準値	実績値						目標値
H30年度末	R元年度末	R2年度末	R3年度末	R4年度末	R5年度末	R6年度末	R6年度末
33人	35人	39人	42人				41人

■ K P I : 支援員配置が必要な学校への支援員配置人数

基準値	実績値						目標値
R1.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1	R6.4.1	R6.4.1
14人	14人	14人	16人				14人

■ K P I : 八雲高校入学率

基準値	実績値						目標値
H31.4.1	R2.4.1	R3.4.1	R4.4.1	R5.4.1	R6.4.1	R7.4.1	R7.4.1
61.8% (84名)	58.5% (72名)	57.7% (78名)	56.5% (74名)				75.0%

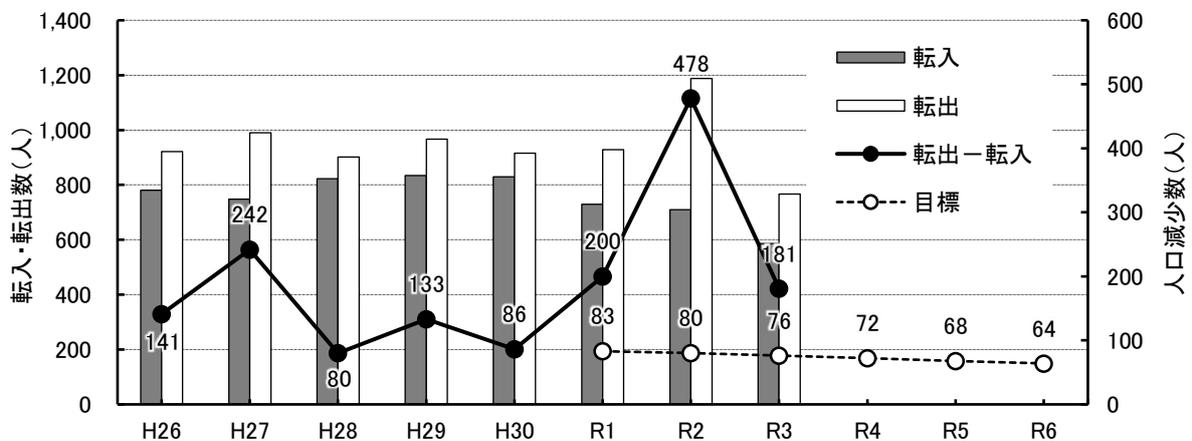
## 基本目標3 人が移り住み定着してもらえるよう

まちの魅力を向上させる

■ K G I : 転出超過の低減

基準値	実績値						目標値
H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	R6年
86人 転出916人 転入830人	200人 転出929人 転入729人	478人 転出1,188人 転入710人	181人 転出767人 転入586人				64人

八雲町の転入・転出状況



出典: 住民基本台帳

## 主要施策1. 交流人口や関係人口を拡大し、八雲町のファンを増やす

■ K P I : 噴火湾パノラマパーク来園者数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
705,794人	665,779人	373,769人	397,498人				727,000人

■ K P I : ふるさと応援寄附金の寄附件数

基準値	実績値						目標値
H26~H30 年度平均	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
115,544件	151,920件	102,248件	144,357件				120,000件

## 主要施策2. 若い世代を中心に呼び込むための支援体制を整備する

### ■ K P I : 空家等対策支援補助金制度（再生支援）利用件数

基準値	実績値						目標値
H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R2~R6年度合計
0件	1件	0件	0件				10件

### ■ K P I : 奨学金償還支援事業補助金の支給人数

基準値	実績値						目標値
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度
なし	-	3件	5件				37件

### ■ K P I : 地域おこし協力隊配置人数 ※再掲のため省略

## 主要施策3. 多様な主体との連携により地域を活性化する

### ■ K P I : 他自治体との連携事業数

基準値	実績値						目標値
R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	
16件	6件	5件				15件	

### ■ K P I : 学術機関との連携事業数

基準値	実績値						目標値
R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	
5件	5件	5件				5件	

### ■ K P I : 企業との包括連携協定数

基準値	実績値						目標値
R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R6年度	
2社	3社	4社				4社	

(2022.10.24 総合開発委員会用素案)

---

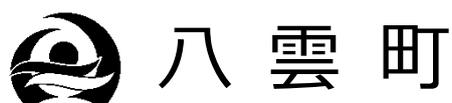
八雲発！自然と人を未来へつなぐ

# 第2期八雲町総合計画

## 後期基本計画 2023～2027

---

太平洋と日本海 二つの海をもつ町



# 目次

総論 ～後期基本計画の前提～	1
第1章 第2期八雲町総合計画のあらまし	2
1 第2期八雲町総合計画の位置づけと基本理念	2
2 計画の構成と期間	2
3 将来像	3
4 基本目標と施策体系	4
5 戦略プロジェクト	5
第2章 後期基本計画のあらまし	6
1 第2期八雲町総合計画における後期基本計画の位置づけ	6
2 基本計画見直しの視点	6
第3章 人口等の基礎的な指標の状況	7
1 人口の状況	7
2 八雲地域、熊石地域の状況	7

---

# 総論

～後期基本計画の前提～

---

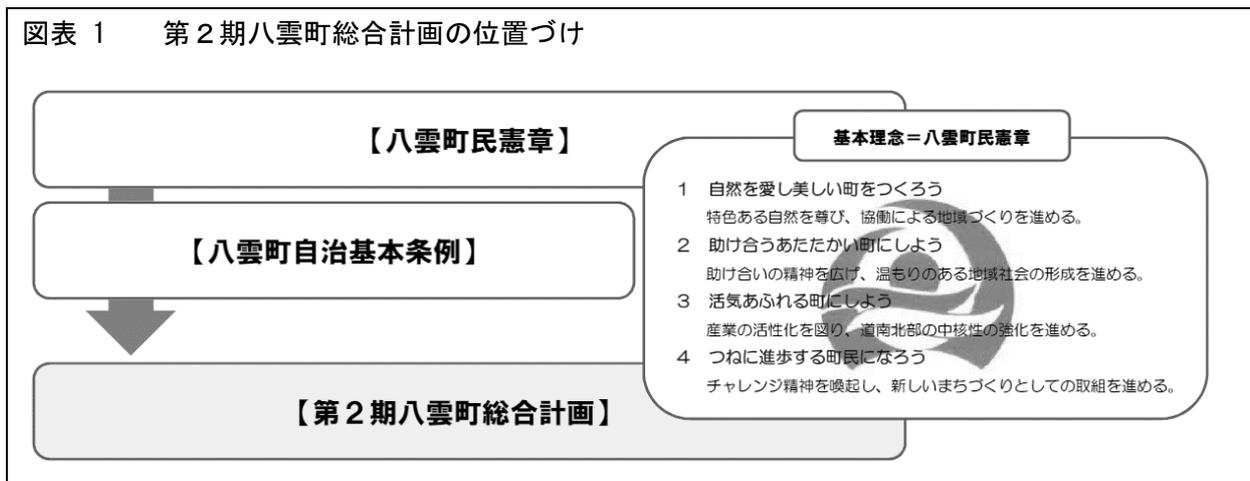
# 第1章 第2期八雲町総合計画のあらまし

## 1 第2期八雲町総合計画の位置づけと基本理念

総合計画は、まちづくりの目標とその取組方向を示すものであり、八雲町における総合的かつ計画的なまちづくりのための最上位に位置する計画です。

そのため、長期展望に立ったまちづくりの基本的な考え方を明らかにするとともに、町民と議会及び行政が一体となったまちづくりを進めるための指針を示します。

また、本計画は、「八雲町民憲章」を基本理念とするとともに、「八雲町自治基本条例」に基づき計画策定・推進を行うものです。



## 2 計画の構成と期間

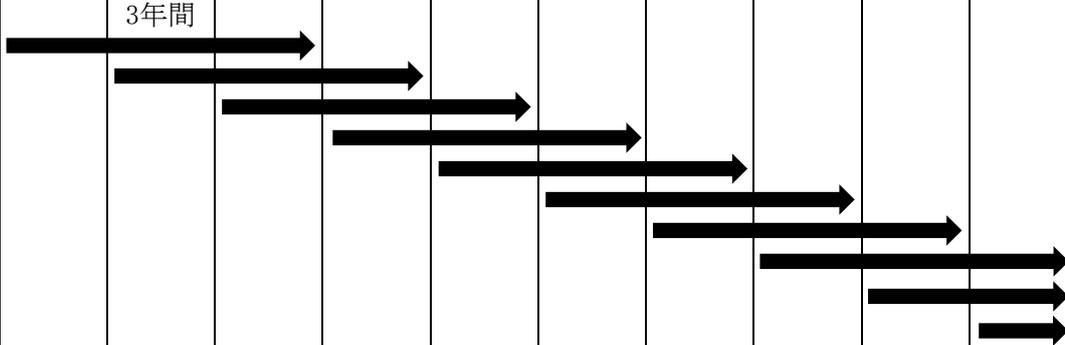
第2期八雲町総合計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成しています。

基本構想及び基本計画の計画期間は、それぞれ平成30年度（2018年度）から令和9年度（2027年度）までの10年間となっており、中間年となる令和4年度に見直しをおこなった基本計画が本書（後期基本計画）となっています。

また、実施計画の計画期間は3年間となっており、毎年度の進捗評価・検証を行いながら見直しをするローリング方式により、進行管理を行います。

図表 2 第2期八雲町総合計画の構成と計画期間

年度	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
基本構想	10年間									
	現況・課題の分析や将来展望に基づき、令和9年度（2027年度）における八雲町の姿や計画の基本的な目標、戦略プロジェクト、施策の大綱等を示すもの。									

年度	H30	R 元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
基本計画	 <p>10年間（中間年度に見直し）</p> <p>基本構想に基づき、各分野別の現況と課題、施策方針及び基本的施策の内容、目標等を示すもの。</p>									
実施計画	 <p>3年間</p> <p>基本計画に定めたそれぞれの施策の具体的な実施方法等を示す計画で、毎年度ローリング方式による見直しを行う。</p>									

### 3 将来像

第2期八雲町総合計画が目指す八雲町の将来像は、基本理念となる「八雲町民憲章」や「八雲町自治基本条例」、さらに20年・30年後の長期的な展望を踏まえ、次のように設定しています。

## 八雲発！自然と人を未来へつなぐ

八雲町は太平洋と日本海・二つの海をもつ自然豊かな町として、歴史を紡ぎながら、将来に向けて農業・漁業の更なる”発”展と新幹線開通を契機に、再生可能エネルギー導入による自然との調和を生み出し、八雲町の魅力を積極的に町内外へ”発”信することで、産業・経済・ひとが活”発”で笑顔あふれる町になるよう、これまで積み上げてきた自然と人との多様なつながりを未来へつなげるという思いを込め、これを10年後の目指すべき将来像とします。

## 4 基本目標と施策体系

---

第2期八雲町総合計画では、5つの基本目標に基づいて、分野ごとの施策を展開することとしています。

### 基本目標1 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

---

分野1	土地利用の推進	分野7	ごみ処理等の環境整備
分野2	自然環境の保全	分野8	緑化・環境美化の推進
分野3	市街地及び集落の環境整備	分野9	防犯・交通安全の推進
分野4	道路網の整備	分野10	消防・救急体制の充実
分野5	交通体系の整備	分野11	防災体制の強化
分野6	上・下水道の整備		

### 基本目標2 八雲の豊かな資源を活用した産業振興

---

分野1	農林業の振興	分野4	観光の振興
分野2	水産業の振興	分野5	雇用の創出と雇用環境の向上
分野3	商工業の振興	分野6	再生可能エネルギーを活用した産業の振興

### 基本目標3 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

---

分野1	健康づくりの促進	分野4	高齢者福祉の推進
分野2	医療体制の充実	分野5	子ども・子育て支援の強化
分野3	地域福祉の促進	分野6	障がい者福祉の推進

### 基本目標4 ふるさとを築く教育の充実と文化・スポーツの振興

---

分野1	学校教育の充実	分野3	スポーツの推進
分野2	生涯学習の推進	分野4	文化財の保存・活用

### 基本目標5 八雲の自立を実現する協働と行財政運営

---

分野1	コミュニティ活動と交流の促進	分野4	行財政の強化
分野2	住民参画の推進	分野5	広域行政の推進
分野3	情報・広報体制の充実		

## 5 戦略プロジェクト

第2期八雲町総合計画では、将来像の実現に向けて特に力を注ぐ取組として、2つの戦略プロジェクトを掲げています。

### (1) 八雲町自立促進プロジェクト

食を支える第1次産業と再生可能エネルギーを活用した産業振興を図り、地域の経済活性化により、行財政運営における自立実現を目指すプロジェクト。

図表 3 八雲町自立促進プロジェクトの数値目標

目標指標	単位	現状値 (平成28年度)	目標値 (令和9年度)
農業生産額	百万円	7,915	10,500
漁業生産額	百万円	10,029	11,000

### (2) 道南北部中心プロジェクト

総合病院の機能の維持や北海道新幹線を中心とした広域的な交通体系や周辺整備等により、道南北部自治体の中心としての機能を高めていくことを目指すプロジェクト。

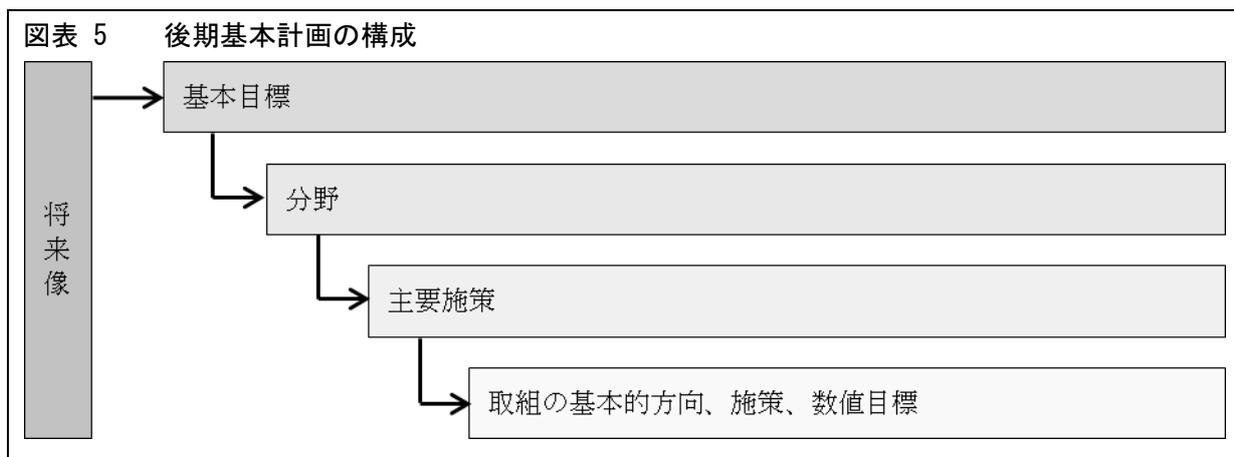
図表 4 道南北部中心プロジェクトの数値目標

目標指標	単位	現状値 (平成28年度)	目標値 (令和9年度)
昼夜間人口比率※	%	100.31 (H27)	100.50
観光入込客数	人	612,100	640,000
製造品年間出荷額等	百万円	34,094 (H26)	36,000

## 第2章 後期基本計画のあらまし

### 1 第2期八雲町総合計画における後期基本計画の位置づけ

基本計画は、基本構想に基づき具体的な町行政の方向を明らかにするため、行政経営の具体的な施策を明示するものです。第2期八雲町総合計画は10年間の計画期間のうち、平成30年度から令和4年度までを『前期基本計画』、令和5年度から令和9年度までを『後期基本計画』としており、本後期基本計画は、前期基本計画と同様に、分野ごとに「主要施策」「取組の基本的方向」「施策」を定めます。また、主要施策ごとに、取組の進捗やその効果を見えやすくすることを目的に数値目標を設定します（数値目標を設定することが難しい主要施策には設定していません）。



### 2 基本計画見直しの視点

基本計画の中間見直しにおいては、主に次の視点をもって見直しを行っています。

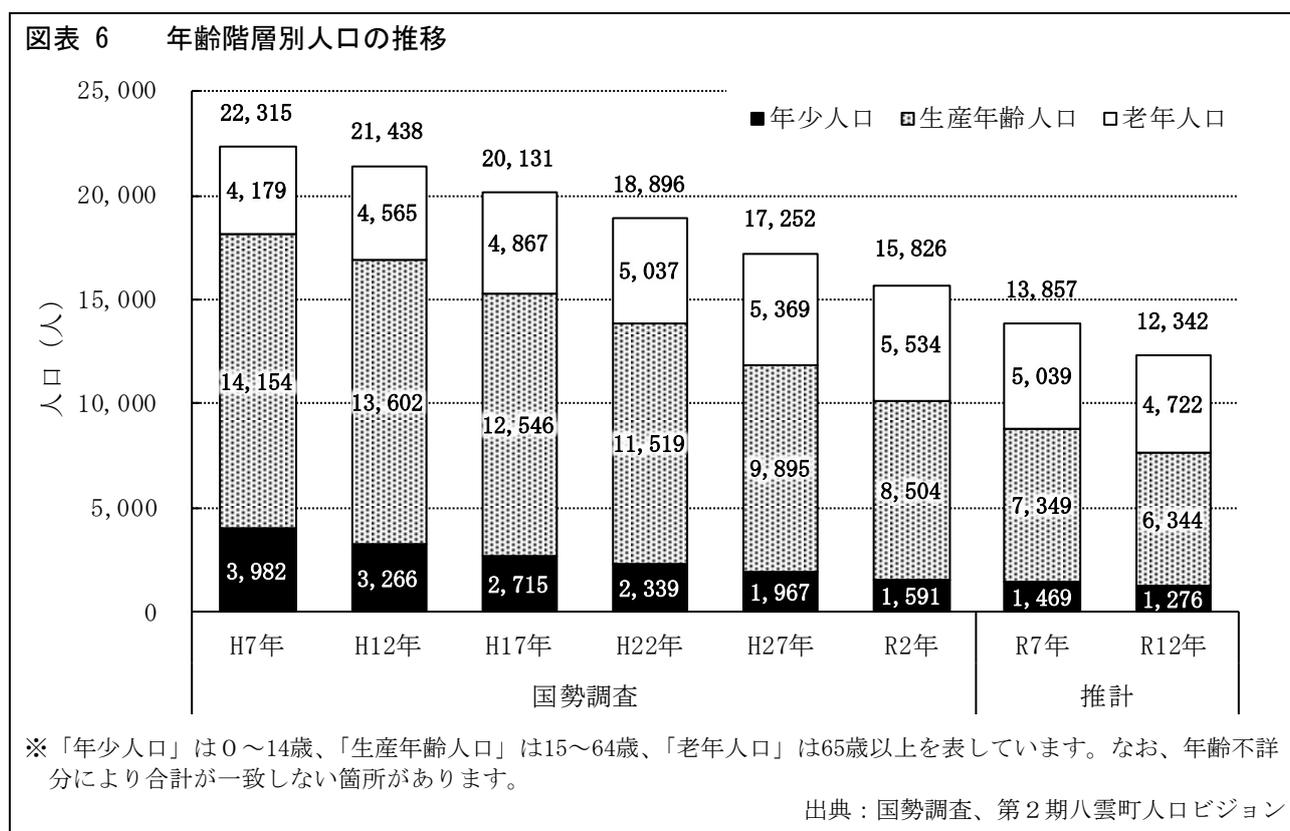
- (1) 社会情勢や町民ニーズに施策の方向性が対応できているか。
- (2) 人口減少および少子高齢化が進むなか、今まで以上に八雲町の身の丈に合った（現実的な）計画となっているか。

## 第3章 人口等の基礎的な指標の状況

### 1 人口の状況

八雲町の人口は昭和35年をピークに減少が続いており、合併した平成17（2005）年には20,131人となり、令和2（2020）年には15,826人となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所による推計方法<sup>注1</sup>に準拠して八雲町の人口を推計すると、今後も人口は一貫して減少を続け、令和12（2030）年には12,342人まで減少する推計となっています（図表6）。

65歳以上の人口は、平成17年には4,867人（24.2%）、令和2年には5,534人（35.0%）となっており、令和12年には4,722人まで減少し、高齢化率としては38.3%に上昇する推計となっています。



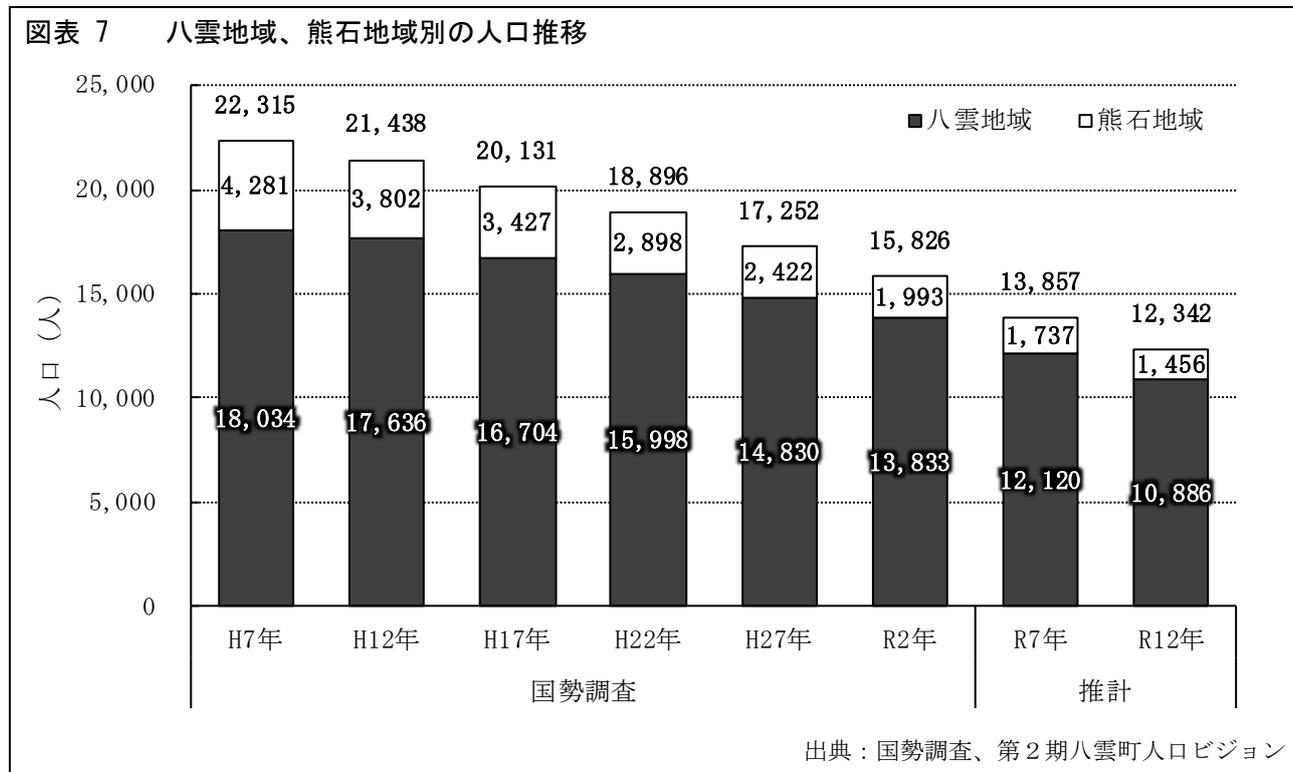
### 2 八雲地域、熊石地域の状況

八雲・熊石の地域別の人口推移としては、平成17年の合併時には八雲地域16,704人、熊石地域3,427人となっており、15年後の令和2年には八雲地域13,833人（平成17年比17.2%減）、熊石地域1,993人（同41.8減）となっています。さらに、令和7年には八雲地域12,120人（同27.4%減）、熊石地域1,737人（同49.3%減）、令和12年には八雲地域10,886人（同34.8%減）、熊石地域1,456人（同57.5%減）と推計されています。

注1 国勢調査から得られる市区町村別の男女5歳階級別人口を基準として、出生に関する仮定値として子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）及び0～4歳性比（0～4歳の人口について、女性の数に対する男性の数の比を女性の数を100とした指数で表したもの）、死亡に関する仮定値として生残率、移動に関する仮定値として移動率を設定した推計。なお、ここでの令和7年、令和12年の人口推計は、平成27年の国勢調査結果により推計している。

減)と推計されます(図表7)。

国勢調査結果及び推計のどちらも、八雲地域に比べて熊石地域の人口減少が早く進んでいることが分かります。



令和 4 年 10 月 24 日 総合開発委員会

## 第 2 期八雲町総合計画基本計画見直しに係る検討用シート

基本目標 1 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備	2
分野 1 土地利用の推進	2
分野 2 自然環境の保全	6
分野 3 市街地及び集落の環境整備	10
分野 4 道路網の整備	15
分野 5 交通体系の整備	20
分野 6 上・下水道の整備	24
分野 7 ごみ処理等の環境整備	30
分野 8 緑化・環境美化の推進	35
分野 9 防犯・交通安全の推進	38
分野 10 消防・救急体制の充実	42
分野 11 防災体制の強化	46
用語解説（五十音順）	52

## 基本目標 1 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

### 分野 1 土地利用の推進

#### 主要施策 1. 行政施設の整備

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○昭和35年に建設された役場本庁舎本館棟は築50年以上が経過し、施設・設備の老朽化が著しいだけでなく、災害対策活動の中核拠点に必要とされる耐震性能を満たしていないことから、早急に大規模改築が必要です。</p>	<p>○昭和36年に建設された役場本庁舎本館棟は、現在の耐震基準を満たしておらず、震度 6 強以上の地震で倒壊又は崩壊する恐れがあり、築60年以上が経過しているため老朽化も著しく、施設・設備等の故障も年々増加している状況で、早急に建て替えが必要です。</p> <p>○本庁舎における相談室や会議室等の不足の他、保健福祉課や教育委員会との窓口の分散化が課題となっていることや、それぞれの施設において慢性的に駐車場が不足している状況にあります。</p> <p>○熊石総合支所庁舎暖房施設は整備後40年以上が経過し設備の老朽化が著しく、かつ地下タンクについては消防より取替指導を受けていることから、早急に改修が必要です。</p> <p>○昭和55年度に建設された熊石総合センターについても、地下タンクの設置年数により更新が必要であり、施設全体の老朽化による劣化も進んでいる状況です。また、避難施設等の位置付けから、大規模改修事業の実施により施設の長寿命化が求められています。</p>
取組の基本的方向	<p>○役場本庁舎は築50年以上が経過し、老朽化が著しいため、早急に本庁舎建替検討委員会等を立ち上げ、町民が使いやすい、多面的機能を備えた本庁舎改築に向け事務を進めていきます。</p>	<p>○現在の本庁舎の位置は、津波浸水想定区域に指定されたことから、令和 2 年 8 月に機能移転した独立行政法人国立病院機構八雲病院の跡地を新庁舎の建設予定地として選定し、公民館や保健センター、子育て支援センターなどの機能を備えた複合施設として町民の声を聴きながら建設計画を進めていきます。</p> <p>○熊石総合支所の組織見直しを含め、熊石地域の行政機関各施設の複合化などを含め、効率的な施設配置を図ります。</p>
施策	施策① 行政施設の整備	施策① 行政施設等の整備推進
数値目標	なし	なし

## 主要施策2. 地籍調査の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○地籍調査※事業は、平成27年度において約5割が完了しています。八雲地域は一部集落と農地・山林の7地区が未調査であり、熊石地域については、平成21年度より調査に着手していますが、今後は、八雲地域完了後に再着手予定です。	○地籍調査※事業は、令和3年度において調査対象の5割を超える面積が完了しています。八雲地域は一部集落と農地・山林の6地区が未調査であり、熊石地域については、平成21年度より調査に着手し一部完了していますが、今後は、八雲地域完了後に再着手予定です。
取組の基本的方向	○八雲及び熊石両地域の地籍調査※完了に向けて、引き続き地籍調査※事業を推進します。	○八雲及び熊石両地域の地籍調査※完了に向けて、引き続き地籍調査※事業を推進します。
施策	施策① 地籍調査※事業の推進	施策① 地籍調査※事業の推進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
地籍調査※実施地区	字	33	36

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
地籍調査※実施完了面積（累計）	km <sup>2</sup>	233.61	233.61	239.83	239.83	247.39	251.94	255.85

## 主要施策3. 町有地等の処分の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○遊休地物件については、平成26年から平成27年まで、特に多くの処分を	○遊休地物件については、その都度処分を行ってきました。今後も遊休地の

課題	行いました。今後も遊休地の処分を適正に行い、土地の有効活用に向けた取組を検討する必要があります。	処分を適正に行い、土地の有効活用に向けた取組を検討する必要があります。 ○経年劣化などにより跡地利用が出来ない公共施設等については周辺環境に危険が生じないように、年次計画で解体事業を進める必要があります。
取組の基本的方向	○遊休地の利用方法を検討するとともに、不用物件の処分を進めます。	○遊休地の利用方法を検討するとともに、不用物件の処分を進めます。  ○老朽化の著しい公共施設等不用施設の解体を順次進めます。
施策	施策① 不用な町有地等の処分の推進	施策① 不用な町有財産の処分の推進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
町有地処分（累計）	件	3	8

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
町有地処分（H28年度からの累計）	件	23	25	26	27	28	29	30
目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
町有建物処分（R3年度からの累計）	件	3	12	15	22	29	29	29

## 主要施策 4. コンパクトなまちづくりの推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
--	-------------	-------------

現況と課題	<p>○人口減少、少子高齢化の進行が着実に進んでおり、医療、福祉、商業などのサービス機能を維持し、将来にわたり持続可能なまちづくりを可能にするため、都市機能・居住機能の集積、公共施設の適正な配置、公的不動産の有効活用等により、コンパクトなまちづくりへの転換を図る必要があります。</p> <p>○平成42年度の北海道新幹線（新函館北斗→札幌）開通に向け、新八雲（仮称）駅周辺の整備計画と整合性のとれた都市計画の見直しを行う必要があります。</p>	<p>○人口減少、少子高齢化の進行が着実に進行している中、医療、福祉、商業などのサービス機能を維持し、将来にわたり持続可能なまちづくりを可能とするため、八雲町立地適正化計画<sup>*</sup>で位置付けた目指すべき都市構造（コンパクトシティ・プラス・ネットワーク）の実現に向けた取組を進める必要があります。</p>
取組の基本的方向	<p>○都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画<sup>*</sup>を策定しコンパクト・プラス・ネットワークの推進による持続可能なまちづくりを推進します。</p>	<p>○平成31年に策定した八雲町立地適正化計画<sup>*</sup>を推進し、居住・都市機能の誘導を図り、定期的な取組達成状況の確認と効果検証を行いながら、誘導施策を検討します。</p>
施策	<p>施策① 安全で住みやすいコンパクトシティ<sup>*</sup>の推進</p>	<p>施策① 安全で住みやすいコンパクトシティ<sup>*</sup>の推進</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
なし			

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
居住誘導区域 <sup>*</sup> における人口密度	人/km <sup>2</sup>	2,484	2,470	2,456	2,442	2,428	2,414	2,400

## 分野 2 自然環境の保全

### 主要施策 1. 地球温暖化対策の推進

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○地球温暖化防止に関する意識が高まる中、八雲町の事業所としての温室効果ガス削減の取組を進めてきました。豊かな地球環境を次代へ引き継ぐために、温室効果ガスのより一層の排出削減が求められています。</p>	<p>○2050年までに脱炭素社会を目指す（以下、カーボンニュートラル）ことが喫緊の課題となっています。地球温暖化に関する取組を町全体で推進するため、令和 4 年 3 月に「ゼロカーボンシティ八雲」を宣言したところであり、カーボンニュートラル実現には、行政の取組だけでなく、町民・事業者との連携・協働が一層求められます。</p> <p>○CO<sub>2</sub>排出量を部門別にみると、産業部門46%、家庭部門21%、運輸部門19%となっており、事業者向けの対策が特に必要となっています。（2019年度）【出典：「自治体排出量カルテ」（環境省）】</p> <p>○「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく地方公共団体の責務として「八雲町温暖化対策実行計画」を策定し、八雲町が自ら実施する事務事業における温室効果ガス排出量削減のため、節電などの日常的な取組を推進してきました。</p>
取組の基本的方向	<p>○地球温暖化防止の観点から、町有施設への省エネルギー設備の導入等だけでなく、町内事業所や各家庭での取組も含めた全町的な排出防止対策が求められていることから、より一層啓発活動を推進します。</p>	<p>○地球温暖化防止の観点から、役場新庁舎建設時に省エネ設備の導入や公共施設への再生可能エネルギー*導入、さらに新たなCO<sub>2</sub>吸収源としてブルーカーボン*の可能性について検討を行います。</p> <p>○事業者や町民に対して省エネルギーの取組などに関する研修会を開催し、普及啓発を図ります。</p> <p>○温室効果ガス排出量削減目標の実現に向け、省エネルギーの取組を更に推進します。</p>
施策	<p>施策① 地球温暖化防止に向けた啓発の推進                      施策② 地球温暖化防止実行計画の推進</p>	<p>○地球温暖化実行計画（区域施策編）の策定・推進                      ○カーボンニュートラル実現に向けた啓発の推進                      ○温暖化対策実行計画の推進</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
町有施設のCO <sub>2</sub> 削減率	%	0	10.0

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
カーボンニュートラル実現に向けた町民等への普及・啓発回数（R5年度以降の累計）	回	0	10	10	20	30	40	50

## 主要施策2. 森林及び河川環境の整備・保全

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林は、豊かな生態系の源であり、水源のかん養、治山機能、学習や憩いの場等、多面的な機能を有しており、これら環境の保全を通じて次代へ素晴らしい自然を伝えていく必要があります。</li> <li>○治山事業とともに、魚道の改良や新設を行う等、河川の生態系を保全する取組を進めてきました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○森林は、豊かな生態系の源であり、水源のかん養、治山機能、学習や憩いの場等、多面的な機能を有しており、これら環境の保全を通じて次代へ素晴らしい自然を伝えていく必要があります。</li> <li>○八雲町の民有林では、戦後植栽された人工林が主伐期を迎えていることから、森林経営計画に基づいた伐採と伐採後の更新が適切に行われており、国際基準である森林認証審査基準に適合した持続可能な循環型林業が実践されている一方、森林整備を担う造林作業員の確保と育成が課題となっています。</li> <li>○治山事業により新設や改良が行われた魚道の清掃等により機能確保に努め、河川の生態系を保全する取組を進めてきました。</li> </ul>
取組の基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八雲町森林整備計画を地域のマスタープラン※に位置づけ、それぞれの森林に求められる重視すべき機能に応じて、適切な保全を図ります。</li> <li>○治山事業等に併せて、生態系に配慮した河川環境の整備を図ります。</li> <li>○植樹祭や苗木の配布等を通じて、緑化思想及び自然保護思想の啓発を図るとともに、企業等、様々な担い手による森づくりを進めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八雲町森林整備計画を地域のマスタープラン※に位置づけ、それぞれの森林に求められる重視すべき機能に応じて、適切な保全を図ります。</li> <li>○治山事業等に併せて、生態系に配慮した河川環境の整備を図ります。</li> <li>○植樹祭や苗木の配布等を通じて、緑化思想及び自然保護思想の啓発と木育の推進を図るとともに、企業等、様々な担い手による協働の森づくりを進めます。</li> </ul>

施策	施策① 豊かな自然環境の保全	施策① 豊かな自然環境の保全
	施策② 環境緑化思想の普及	施策② 環境緑化思想の普及

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
なし			

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
木育活動	回	2	2	3	3	3	3	3

### 主要施策 3. 野生鳥獣の保護と管理

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○野生動物による農業被害や生活環境被害が増加する一方、捕獲従事者の減少及び高齢化が進み、特にヒグマに対応できる高度な技術を有した従事者の確保は危機管理体制を構築する上で大きな課題となっています。また、急増しているエゾシカの捕獲は、今後の農林業被害に大きく影響するため、捕獲の強化を図っていく必要があります。</p>	<p>○有害鳥獣捕獲従事者の減少に対応するため、狩猟免許等の新規取得者に対する支援制度を創設し狩猟者の確保を図っていますが、依然としてヒグマに対応する高度な捕獲技術を有する従事者は不足していることから、今後も狩猟者の確保と捕獲技術の伝承に取り組む必要があります。また、エゾシカ捕獲数は令和3年度に200頭を超えるなど急増しており、農林業被害の防止のため捕獲圧の強化が必要です。</p> <p>○銃器の使用が制限される市街地周辺でのヒグマの出没や人を恐れないヒグマが増加傾向にあることから住民や対策に当たる関係職員の安全確保が課題となっています。</p>
取組の基本的方向	<p>○野生動物による農業被害や生活環境被害を軽減・未然防止するため、関係機関との連携を強化し、被害状況の分析や捕獲体制を充実するとともに、自然保護監視員*との連携を図りながら、自然保護と適正管理の両立を図ります。</p>	<p>○野生鳥獣による農林業被害や生活環境被害を軽減・未然防止するため、今後も関係機関との連携を強化し、被害状況の分析や防除対策の普及推進に取り組むほか、被害を及ぼす個体を確実に排除するための捕獲体制を充実させるとともに、自然保護監視員*との連携を図りながら自然保護と適正管理の両立を図ります。</p> <p>○町ホームページやLINEなどを活用し、ヒグマの出没情報を迅速かつ正確に周知することにより、人身事故の未然防止に努めます。</p>

施策	施策① 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化	施策① 鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化
	施策② 危機管理体制の維持	施策② 危機管理体制の維持
	施策③ 有害鳥獣捕獲従事者等の担い手の育成	施策③ 有害鳥獣捕獲従事者等の担い手の育成
		施策④ 被害防除対策の普及推進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
捕獲従事者（累計）	人	51	60
新規狩猟者	人/年	3	5

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
捕獲従事者	人	59	62	65	68	70	70	70
新規狩猟者	人/年	3	3	3	3	3	3	3

## 分野 3 市街地及び集落の環境整備

### 主要施策 1. 都市計画道路の整備

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	○都市計画道路については、「まちづくりの将来像」を明確にしたうえで、見直しを計ります。3・4・2出雲通については、第2工区以降の整備計画を早急に確立し、サークルライン形成に向け整備を進める必要があります。その他未整備の都市計画道路についても、防災上必要性が特に高いものは、早急に整備を検討する必要があります。	○都市計画道路については、人口減少等の社会情勢の変化に対応した都市の将来像を実現する交通体系の観点から、必要に応じて見直しが必要です。3・4・2出雲通については、北海道新幹線開業の動向を見据え、第2工区以降の整備計画を早急に確立し、整備を進める必要があります。3・4・7本町大通については未整備区間の早期整備を進めます。その他未整備の都市計画道路についても、防災上必要性が特に高いものは、早急に整備を検討する必要があります。
取組の基本的方向	○北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備と整合性のとれた、一体的な都市計画道路の見直しを行います。	○八雲町都市計画マスタープラン*に基づき、必要に応じて都市計画道路の見直しを行います。
施策	施策① 都市計画道路整備	施策① 都市計画道路整備
数値目標	なし	なし

### 主要施策 2. 公営住宅の整備

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	○公営住宅については、「八雲町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、既存住宅の定期的・継続的な維持改修に努めていく必要があります。また、計画的な建替えを行い、近年の人口減少に伴い集約化を図る必要があります。	○人口減少や国の施策、社会情勢等を踏まえ、公営住宅等の将来的な需要予測に基づく供給目標量（管理戸数）の検討を踏まえた建替・維持管理計画を見直す必要があります。令和2年度に「八雲町公営住宅等長寿命化計画」を策定しました。

		○今後は、「八雲町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、既存住宅の維持改修と計画的な建替えを行っていく必要があります。
取組の基本的方向	○近年の人口減少に伴い公営住宅の管理戸数及び入居希望者数も減少傾向にあることから、現行の建替計画や維持改修計画を見直す必要があるため長寿命化計画の見直しを行います。 ○公営住宅の建替えにあたっては、立地環境、入居者の家族構成や年齢構成、バリアフリー等に配慮した「木造」住宅の整備を推進します。	○定期的な施設点検により公営住宅等ストックの状況を把握し、適切な時期に予防保全的な修繕及び耐久性の向上等を図り、公営住宅等の長寿命化の実現とライフサイクルコスト*の縮減に努めていきます。 ○令和2年度に策定した「八雲町公営住宅等長寿命化計画」については、10年間を計画期間としており、今後の人口・世帯の動向、社会情勢の変化や国、北海道における制度の見直し等にも、柔軟に対応し推進していきます。
施策	施策① 町営住宅の建替 施策② 町営住宅外壁等の改修 施策③ 長寿命化計画の見直し	施策① 公営住宅等管理戸数の縮減 施策② 公営住宅等の長寿命化改修

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
町営住宅の建替（累計）	戸	10	45
町営住宅外壁等改修	戸/年	27	19

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
公営住宅等管理戸数の縮減	戸	656	658	610	610	594	594	594
公営住宅等の長寿命化改修（累計）	戸	0	0	24	58	82	124	144

### 主要施策3. 空家等対策の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と	○八雲町の空家等の対策を進めるにあたり、町内各地域の身近な空家等の状況や実態を把握している各町	○地域における人口減少や住宅・建築物の老朽化、社会的ニーズの変化等に伴って空家等が全国的に年々増加しています。八雲町においても空家戸数は増加しており、地域における課題

課題	<p>内会に対してアンケート調査を行った結果、空家数340戸うち、倒壊する危険性有53戸（15.6%）、居住不可能102戸（30.0%）、居住可能185戸（54.4%）となっています。</p>	<p>の一つとして放置されている空家等の問題が挙げられています。</p> <p>○八雲町の空家等対策について、継続的に取り組む必要があることから、令和4年度から5年間の計画期間とする「第2期八雲町空家等対策計画」を令和3年度に策定しました。</p> <p>○計画策定にあたり、町内各地域の空家等の状況や実態を身近に把握している各町内会に対してアンケート調査を行った結果、空家数525戸のうち倒壊する危険性有67戸、居住不可能171戸、居住可能287戸となっています。</p>
取組の基本的方向	<p>○空家等の状況に応じて、①空家等の発生抑制、②空家等の活用促進、③管理不全な空家等の防止、解消、④空家等対策に係る実施体制の整備等を柱とした空家等対策を推進します。</p>	<p>○空家等の状況に応じて、①空家等の発生抑制、②空家等の活用促進、③管理不全な空家等の防止、解消、④空家等対策に係る実施体制の整備等を柱とした空家等対策を推進します。</p>
施策	<p>施策① 空家等の実態調査及び所有者意識の醸成</p> <p>施策② 改修による空家等の再生支援、需要と供給のマッチングの促進</p> <p>施策③ 特定空家等*の解体支援及び跡地の活用促進</p>	<p>施策① 空家等の実態調査及び所有者意識の醸成</p> <p>施策② 改修による空家等の再生支援、需要と供給のマッチングの促進</p> <p>施策③ 特定空家等*の解体支援及び跡地の活用促進</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
空家等の活用促進（累計）	件	0	15
特定空家等*の解消（累計）	戸	0	10

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
空家等の活用促進（H28年度からの累計）	件	1	5	10	15	20	25	30
特定空家等*の解消（H28年度からの累計）	戸	1	3	5	7	9	11	13

## 主要施策4. 質の高い住環境の整備促進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○高齢者等でも安心して住み続けられる住環境や省エネ住宅等環境へ配慮した住宅建設等、質の高い住環境の整備に努めていく必要があります。	○高齢者等でも安心して住み続けられる住環境や省エネ住宅等環境へ配慮した住宅建設等、質の高い住環境の整備に努めていく必要があります。 ○八雲町では、町民の豊かな住生活の実現を目指し、住生活の安定確保・向上を促進するために、「八雲町住生活基本計画」を令和2年度に策定しました。 ○アイヌ住宅整備資金貸付事業の利用状況については、平成30年度、令和元年度は実績なし。令和2年度および令和3年度においてそれぞれ1件ずつ改築資金を貸付しています。
取組の基本的方向	○安全・安心に住み続けられる住まいづくりや省エネ住宅等環境に配慮した住宅の建設を促進するために、住宅性能やリフォームに関する情報提供と相談体制の充実を図っていきます。	○安全・安心に住み続けられる住まいづくりや省エネ住宅等、環境に配慮した住宅の建設を促進するために、住宅性能やリフォームに関する情報提供と相談体制の充実を図っていきます。
施策	施策① 住環境の整備の促進	施策① 住環境の整備の促進
数値目標	なし	なし

## 主要施策5. 基地の充実及び基地周辺の環境整備

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○航空自衛隊八雲分屯基地は、第6高射群第20高射隊・第23高射隊が配備され、広大な敷地の有効活用の観点からも、部隊の新たな配置等の要望や基地周辺の整備を推進します。	○航空自衛隊八雲分屯基地を有する八雲町では、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律「環境整備法」に基づく補助金を公共施設の整備などの対象となるよう継続して要望するとともに部隊の新たな配置等の要望や基地周辺の整備を推進します。 ○八雲町は全国基地協議会や防衛施設周辺整備全国協議会に加盟し、他自治体と協調して要望を行っています。又、八雲町単独でも2年に1度八雲町議会と共同で要望活動を行って

		います。
取組の基本的方向	○八雲分屯基地周辺の環境整備を推進し、各種制度や基地の充実等の要望をしていきます。	○八雲分屯基地及び周辺の環境整備とともに、各種制度の充実や基地機能の有効活用等を要望していきます。
施策	施策① 各種制度の充実、新たな部隊配備等の要望活動	施策① 各種制度の充実、基地機能の有効活用等の要望活動

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
防衛施設周辺整備等要望活動	回/年	2	2

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
防衛施設周辺整備等要望活動	回/年	3	6	3	6	3	6	3

## 分野4 道路網の整備

### 主要施策1. 国道及び道道等の整備促進 ※高速道路の4車線化を含むため「等」を入れました

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国道5号は、一直線の道が続き、気持ちのゆるみが生じ易いこともあり、交通死亡事故が多く発生しているため、交通安全対策が求められています。</li> <li>○国道277号は、八雲地域と熊石地域の一体化を促進する上で重要な道路であり、新幹線新八雲（仮称）駅の開業に伴う観光客の熊石誘導にも重要な道路であるため、通行の安全を確保する整備が求められています。</li> <li>○国道229号は、過去に越波による大きな被害を受けており、通行に危険な箇所は護岸の嵩上げが実施されてきましたが、引き続き未実施区間の安全対策が求められています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民の生活や物流基幹を支えるため、老朽化対策及び自然災害という観点からも各道路を整備する必要があります。また、新幹線新八雲（仮称）駅の開業に伴う渡島檜山各地域からの観光客誘導にも重要な役割をもつ道路としても整備促進が求められます。</li> <li>○国道277号は、町が主体となっている期成会にて北海道開発局へ毎年要望活動を行っており、渡島総合開発期成会でも関係機関へ要望しています。平成28年度から令和3年度で鉛川事故対策として一部の線形改良が行われており、令和4年度は鉛川視距改良事業が着手される予定です。</li> <li>○国道229号は、渡島総合開発期成会にて関係機関へ要望をあげており、令和3年度より冷水橋架替が事業着手されています。</li> <li>○現状としては、国道5号線に関する要望活動は行っていません。</li> <li>○縦貫自動車道は、国道5号線の代替・避難ルートの確保として重要な役割を担っており、現在2車線である国縫IC～八雲ICの4車線化の早期実現について、優先整備区間の早期着手を要望し続けています。</li> <li>○道道については、八雲厚沢部線の整備が令和2年度から着手されています。八雲市街地の道道では、出雲通の整備が着手されており、令和6年度からは本町大通事業が着手予定となっています。</li> </ul>
取組の基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各期成会や関係団体と連携を図りながら、国道等の整備促進に向け要望活動を引き続き実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各期成会や関係団体と連携を図りながら、国道等の整備促進に向け要望活動を引き続き実施します。</li> </ul>

施策	施策① 整備促進に向けた要望活動の推進	施策① 整備促進に向けた要望活動の推進
----	---------------------	---------------------

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
なし			

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
道路整備促進等要望活動	回/年	3	3	3	3	3	3	3

## 主要施策 2. スマート I C 整備の検討 ※削除

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○北海道縦貫道自動車道と八雲パーキングエリアは、噴火湾パノラマパークと隣接しており、年間67万人ほどの来場があります。町内の観光施設への誘導を促進するためにも、スマート I C*の設置が求められています。	○八雲パーキングエリアにスマート I C*を設置することを検討してきましたが、交通量が少ないことで設置許可が出ないという状況となっています。
取組の基本的方向	○関係機関とスマート I C*の設置の可能性について検討協議を進めていきます。	○国の設置基準が緩和されるとの情報は無いことから、検討を休止しています。現状では、この項目「主要施策 2 スマート I C*整備の検討」を削除し、設置できる可能性が高まった際に、総合開発委員会の意見を聞いた上で、再度、総合計画に盛り込むべきものと考えます。
施策	施策① スマート I C*整備の検討	
数値目標	なし	

## 主要施策2. 町道の整備及び維持改修

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○既存町道のほとんどは、防塵対策しか行っていない脆弱な未改良道路となっており、経年の劣化や凍上によるひび割れや隆起が発生して通行に支障をきたしている路線が増加している状況です。</p> <p>○橋梁については、高度経済成長期を中心に集中的に建設され、老朽化する橋梁が急速に増加し、劣化損傷による重大事故が発生する危険性が高まっているため、「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、予防保全的な修繕を計画的・効率的に実施し、維持管理コストの縮減や安全性の確保を図っています。</p>	<p>○既存町道のほとんどは、防塵対策のみの脆弱な未改良道路となっており、経年の劣化や凍上によるひび割れや隆起が発生して通行に支障をきたしている路線が増加している状況です。</p> <p>○橋梁については、高度経済成長期に集中的に建設され、老朽化する橋梁が急速に増加し、劣化損傷による重大事故が発生する危険性が高まっているため、「橋梁長寿命化修繕計画」を定期的に見直し、予防保全的な修繕を計画的・効率的に実施し、安全性の確保と維持管理コストの縮減を図っています。</p>
取組の基本的方向	<p>○町道については、路線の損傷度合や利用状況等を考慮して、計画的・効率的な整備の推進に努めます。</p> <p>○橋梁については、「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、計画的・効率的な事業の推進及び定期点検の適正な実施による安全性の確保に努めます。</p>	<p>○町道については、路線の損傷度合や利用状況等を考慮して、計画的・効率的な整備を行うとともに歩行者の安全確保に向けた整備を推進していきます。</p> <p>○橋梁については、「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、計画的・効率的な事業の推進及び定期点検の適正な実施による安全性の確保に努めます。</p>
施策	<p>施策① 町道の計画的な改良整備</p> <p>施策② 町道の維持改修による安全確保</p> <p>施策③ 橋梁等の計画的な修繕による安全確保</p>	<p>施策① 町道の計画的な改良整備</p> <p>施策② 町道の維持改修による安全確保</p> <p>施策③ 町道維持管理及び維持車両の更新</p> <p>施策④ 橋梁等の計画的な修繕による安全確保</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
町道改良整備及び維持改修（累計）	路線	6	30
橋梁長寿命化修繕（累計）	橋	4	33
橋梁定期点検（2巡目累計）	橋	0	174

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
町道改良整備及び維持改修	路線	4	6	5	5	4	4	4
橋梁長寿命化修繕	橋	8	3	4	2	2	1	1
橋梁定期点検（2巡目）	橋	53	42	18				
橋梁定期点検（3巡目）	橋				29	41	40	45

**主要施策 4. 道路管理機能の強化 ⇒ 「主要施策 3. 町道の整備及び維持改修」へ統合**

**主要施策 3. 除雪対策の充実**

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○冬期間における安全で快適な生活環境の確保に向けて、主要幹線道路、通学路等の効率的な除排雪に努めています。また、市街地近郊での雪捨て場の確保についても今後の検討課題となっています。	○冬季間における安全で快適な生活環境の確保に向けて、主要幹線道路、通学路等の効率的な除排雪に努めています。また、市街地近郊での雪捨て場の確保については今後の検討課題となっています。
取組の基本的方向	○効率的な除排雪に努めるとともに市街地の適切な雪捨て場を確保し、安定した除排雪業務の実施体制を構築します。	○除排雪の安定化を図る為、適切で効率的な雪捨て場の確保、町直営除雪体制や除雪業者の実態把握をし、全体的な体制を見直します。
施策	施策① 除雪機械の更新 施策② 除排雪体制の充実	施策① 除雪機械の更新、購入 施策② 除排雪体制の充実

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
町道除雪延長	km	488.4	488.4

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
通行車、歩行者の通行障害、通行止め発生件数	件	0	0	0	0	0	0	0



## 主要施策2. 新八雲（仮称）駅周辺整備の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○北海道新幹線新八雲（仮称）駅は、春日地区への設置が予定されており、北海道新幹線開業が八雲町及び駅周辺へ及ぼす効果、課題等について整理し、駅周辺の整備の考え方及び整備方針を検討する必要があります。	○北海道新幹線新八雲（仮称）駅は、春日地区への設置が予定されており、北海道新幹線開業が八雲町及び駅周辺へ及ぼす効果、課題等について整理し、駅周辺の整備の考え方及び整備方針を具体的に検討する必要があります。 ○八雲町内の産業団体や一般公募から組織している北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議を令和元年度から設置し、新駅周辺整備等に関して様々な意見交換を実施しています。
取組の基本的方向	○新幹線駅周辺の整備の考え方及び整備方針を確立し、土地利用計画、交通計画及び各種施設のデザイン計画等を含めた駅周辺地区の整備基本計画を策定し、新幹線開業の効果を最大限に活かしたまちづくりを推進します。	○新幹線駅周辺の整備の考え方及び整備方針については、引き続き北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議を中心に中高生や有識者などの意見も取り入れ、具体化の検討を進め、新駅周辺整備を推進します。
施策	施策① 新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画の策定 施策② 新八雲（仮称）駅周辺整備の推進	施策① 新八雲（仮称）駅周辺整備の推進
数値目標	なし	なし

## 主要施策3. 並行在来線対策の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○並行在来線*については、北海道新幹線の開業に伴い、並行在来線*がJR北海道より経営分離されることとなり、今後の動向に注視する必要があります。 ○地域の公共交通のあり方を研究し、新幹線沿線自治体の生活路線の利便性の確保の観点から関連機関と	○並行在来線*については、北海道新幹線の開業に伴い、並行在来線*、JR函館線函館一小樽間がJR北海道より経営分離されることとなります。協議が先行した長万部一小樽間については、「鉄道を廃止し、バスを中心とした新たなネットワーク構築」で沿線自治体が合意しました。函館一長万部間について、早期決定が必要であり、北海道・沿線自治体との協議が重要です。

	協議・連携していく必要があります。	○地域の公共交通のあり方を研究し、新幹線沿線自治体における生活路線の利便性確保の観点や将来の地域人口減少や高齢化率の増加も踏まえ、関連機関と協議・連携していく必要があります。
取組の基本的方向	○北海道新幹線の開業に伴い、J R北海道より経営分離される並行在来線*のあり方について、新幹線沿線自治体等と連携し検討を行います。	○北海道新幹線の開業に伴い、J R北海道より経営分離される並行在来線*のあり方について、新幹線沿線自治体等と連携し検討を行います。
施策	施策① 公共交通を確保する施策の検討	施策① 公共交通を確保する施策の検討 施策② 並行在来線*に変わる交通手段の検討
数値目標	なし	なし

## 主要施策 4. 公共交通の確保

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○八雲町内を運行するバスは、どの路線も赤字を抱えており、利用者の増加も見込みがなく、国・道・沿線自治体の協調負担で維持されています。今後も、バス運行会社の更なる経営努力と自治体の支援を行いながら、住民の利便性の確保を図っていく必要があります。</p> <p>○八雲地域と熊石地域を結ぶ八雲～江差間バスは、熊石高校廃止後にバス利用者は増加しているものの、運行回数が1日2往復と少なく、利便性は低い状況であり、北海道と沿線自治体（八雲町・乙部町・江差町）の補助により路線が維持されています。</p>	<p>○八雲町を通過する函館バスの3路線（檜山海岸線、函館長万部線、快速瀬棚号）は、函館バスの経営努力を大前提としつつ、赤字となっても廃線としないよう八雲町としても補助金を交付し、支援してきました</p> <p>○江差町からせたな町大成地域までを結んでいた檜山海岸線バスは、令和2年9月30日をもって運行区間が江差町から熊石までとなり、熊石からせたな町大成区までの区間については令和2年10月1日から檜山海岸線予約バスをせたな町と八雲町が共同で運行しています。</p> <p>○八雲地域と熊石地域を結んでいた八雲～江差間バスは、令和3年9月30日をもって廃止となり、令和3年10月1日から熊石八雲間予約バスが運行しています。</p> <p>○令和4年度は、栄浜方面～八雲～黒岩方面、市街地循環バスの実証運行を予定しています。</p>

		○2030年度末に予定されている北海道新幹線開業を見据え、並行在来線*のバス転換について検討を進める必要があります。
取組の基本的方向	○国・北海道及び沿線自治体と連携し、路線バスを維持するとともに、少子高齢化による人口構成の変化や北海道新幹線開業に伴い、路線バス運行の環境が大きく変化することが予測されることから、コミュニティバス*やデマンド交通*等、新たな交通手段を研究します	○通院・通学等を支障なく行うことができるよう現状のバス路線地域の公共交通サービスを維持するとともに、効率的な運行方法等を検討します。 ○北海道新幹線開業に向け、国・北海道及び沿線自治体と連携し、並行在来線*からのバス転換等を研究します。
施策	施策① 現路線バスの維持及び新たな交通手段の研究 施策② 国・北海道及び沿線自治体と連携した路線バス維持への支援	施策① 現路線バス地域の公共交通サービス維持及び効率化 施策② 新たな予約バス導入の検討

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
バス路線の維持	路線/年	4	4

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
路線バス等の1日あたりの走行距離	km/日	638.3	638.3	638.3	638.3	703.7	703.7	717.7

## 分野 6 上・下水道の整備

### 主要施策 1. 良質な水の供給

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水道事業の経営状況は現時点では良好となっていますが、中長期的な視点における財政の見通しは今後の更新需要と給水収益の減少を考慮すると、厳しい状況になることが想定されます。今後は、アセットマネジメント*の観点から、健全な経営状況を維持しつつ、課題を解決するための施設整備を進めていく必要があります。</li> <li>○熊石地域における水道供給施設は、管路については今後も計画的な更新が必要で、取水・浄水施設及び配水池に関しては、耐震診断が未実施であり、耐震性が不明であることから、耐震診断を実施し耐震性能を把握したうえで、補強等の適切な対策を講じる必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国立病院機構八雲病院等の廃止により、令和 2 年度から 3 年度において、大幅に給水人口が減少しました。</li> <li>○八雲地域における水道事業は、現時点では良好な経営状況ですが、今後も人口減少による給水人口の減少、節水機器の普及、節水意識の広がりなどにより、給水収益の減少が想定されます。</li> <li>○中長期的な財政見通しでは、給水収益が減少する中で、今後も良質な水の安定的な供給のために、施設更新が継続的に必要なこと、また、今後は施設の大量更新時期を迎える見込みであることから、厳しい経営状況となることが想定されるため、施設更新事業のあり方の検討、水道料金の最適化などを進め、健全な経営を維持していく必要があります。また、今後も引き続き良質な水の確保のために適切な水源管理を続けていく必要があります。</li> <li>○今後はアセットマネジメント*の観点から施設の適切な維持管理による物理的寿命の長寿命化を進めるとともに、水需要の減少、未普及地区の解消などの課題解決に向けた施設整備を進めていく必要があります。</li> <li>○熊石地域における水道供給施設は、管路については有収率*の問題もあり今後も計画的な更新が必要で、取水・浄水施設及び配水池に関しては、耐震診断が未実施であることから、診断を実施し耐震性能を把握したうえで、順次補強等の適切な対策を講じる必要があります。</li> </ul>
取組の基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「八雲町水道事業ビジョン」に基づき、安全で良質な水道水を安定的に供給し続けていくために、計画的に施設整備を進めるとともに、良好で効率的な施設の維持管理を図ります。</li> <li>○老朽施設の計画的な更新や改良を図るとともに、住宅建</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「八雲町水道事業ビジョン」および「八雲町水道事業経営戦略」「八雲町熊石簡易水道事業経営戦略」に基づき、将来にわたって健全な経営を維持しつつ、安全で良質な水道水を安定的に供給していくため、計画的に施設整備を進めるとともに、良好で効率的な施設の維持管理を図ります。</li> <li>○老朽施設の計画的な更新や改良、施設の適切な維持管理による長寿命化を図るととも</li> </ul>

	設等、まちの形成に応じた給水体制の整備を進めます。また、取水・浄水施設及び配水池に関して、耐震診断を実施し、補強等の適切な対策を講じていきます。	に、住宅建設等、まちの形成変化に応じた給水体制の整備を進めます。また、取水・浄水施設及び配水池に関して、耐震診断の実施含め、劣化状況等による補強・更新などの適切な対策を講じていきます。
施策	<p>主要施策 1. 良質な水の供給</p> <p>    施策① 水源域の環境保全による良質な水の確保</p> <p>主要施策 2. 水道供給施設の整備</p> <p>    施策① 市街化に対応した給水体制の整備</p> <p>    施策② 老朽化に伴う施設、設備の改修、更新</p> <p>    施策③ 管路図のシステム化</p>	<p>施策① 水源域の環境保全による良質な水の確保</p> <p>施策② 市街化に対応した給水体制の整備</p> <p>施策③ 老朽化に伴う施設、設備の改修と更新、適切な維持管理</p> <p>施策④ 管路図のシステム化</p>
数値目標	なし	なし

## 主要施策 2. 水道供給施設の整備 ⇒ 「主要施策 1. 良質な水の供給」へ統合

### 主要施策 2. 未給水地域の解消

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	なし	○現状、未給水区域において井戸の枯れや水質の悪化などにより、水の確保に課題を抱える住民が散見されます。また、新幹線駅周辺における水の確保も課題となっています。
取組の基本的方向施策	○未給水地区における安定的な水の供給を図るための施設整備を図ります。	○新幹線駅周辺を含む未給水地区において、安定的に安全な水の供給を図るため、施設整備を図ります。
	施策① 未給水地域における適正な水道施設の導入	施策① 未給水地域における適正な水道施設の導入

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
水道普及率	%	95.6	95.7

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
水道普及率	%	95.7	95.8	95.9	96.0	96.1	96.2	96.4

### 主要施策 3. 下水道事業の促進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八雲地域（落部農業集落排水施設を含む）の下水道本管整備については、ほぼ完了しているため、今後は、宅地造成等に伴う枝線管渠及び汚水柵整備の町単独事業のみとなっています。</li> <li>○八雲下水浄化センターの整備については、老朽化対応としての長寿命化事業の実施と、し尿処理施設（長万部との共同処理施設）の廃止（予定）に伴いMICS事業*の実施が必要です。</li> <li>○熊石浄化センター及び落部農業集落排水下水処理施設の老朽化対応として、長寿命化事業の実施が必要です。</li> <li>○熊石地域の下水道事業については、西浜・関内地区への管渠整備は、下水道使用者数の大きな増加が見込まれず、今後の維持管理費は町にとって大きな財政負担となることから、事業を凍結することとし、個人の合併浄化槽設置に対する補助を行っていきます。</li> <li>○老朽化した真萩ポンプについて、平成25年に策定した長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○八雲地域（落部農業集落排水施設を含む）の下水道本管整備については、ほぼ完了しているため、今後は、主に宅地造成等に伴う枝線管渠及び汚水柵整備を実施していきます。</li> <li>○八雲下水浄化センターの整備は、老朽化対応としてのストックマネジメント事業による長寿命化に取り組んでおり、し尿処理施設（長万部町との共同処理施設）の廃止に伴いMICS事業*を実施・完了、順調に運営しています。</li> <li>○熊石浄化センター及び落部地区農業集落排水下水処理施設の老朽化対応として、ストックマネジメント事業及び長寿命化を実施中です。</li> <li>○熊石地域の下水道事業については、西浜・関内地区への管渠整備は、下水道使用者数の大きな増加が見込まれず、今後の維持管理費は町にとって大きな財政負担となることから、個人の合併処理浄化槽設置に対する補助を行っていきます。</li> <li>○下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計の地方公営企業法適用による企業会計への移行を進めています。</li> <li>○企業会計移行に伴う抜本的な経営体質改善のため、下水道使用料の見直しが必要です。</li> <li>○老朽化した真萩ポンプについて、平成25年に策定した長寿命化計画及び令和2年に策</li> </ul>

	寿命化計画に基づき、計画的な維持補修を行い、長寿命化を図る必要があります。	定した公共下水道ストックマネジメント計画に基づき、計画的な維持補修を行い、長寿命化を図る必要があります。
取組の基本的方向	○長寿命化計画に基づき、真萩ポンプ場の適切な維持管理を図ります。	○ストックマネジメント計画及び長寿命化計画に基づき、八雲下水浄化センター、熊石浄化センター、真萩ポンプ場の適切な維持管理を図ります。 ○下水道事業特別会計及び農業集落排水事業特別会計の地方公営企業法適用による企業会計への移行を適切に進めます。
施策	施策① 計画的な施設整備・更新の推進 施策② 良好で効率的な維持管理の推進 施策③ 真萩ポンプ場長寿命化の取組	施策① 計画的な施設整備・更新の推進 施策② 良好で効率的な維持管理の推進 施策③ 施設の長寿命化の取組 施策④ 地方公営企業法を適用した取組 施策⑤ 真萩ポンプ場長寿命化の取組
数値目標	なし	なし

#### 主要施策 4. 水洗化及び合併処理浄化槽の普及促進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○生活環境の保全及び公共用水域の水質保全を図るため、下水道への接続推進を図る必要があります。水洗化率向上に向け、より一層の普及啓発を図っていくとともに、下水道整備区域外においては、合併浄化槽の設置促進を図っていきます。	○生活環境の保全及び公共用水域の水質保全を図るため、下水道への接続推進を図る必要があります。水洗化率向上に向け、より一層の普及啓発を図っていくとともに、下水道整備区域外においては、合併浄化槽の設置促進を図っていきます。
取組の基本的方向	○水洗化率の向上と合併処理浄化槽の普及を図るとともに、浄化槽の適正管理の啓発を図ります。	○水洗化率の向上と合併処理浄化槽の普及を図るとともに、浄化槽の適正管理の啓発を図ります。
施策	施策① 啓発活動の推進	施策① 啓発活動の推進

	施策② 水洗化への支援	施策② 水洗化への支援 施策③ 合併処理浄化槽の普及促進
--	-------------	---------------------------------

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
水洗化率	%	91.9	93.0
合併処理浄化槽の設置助成（累計）	基	162	210

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
水洗化率	%	91.4	91.6	91.8	92.1	92.4	92.7	93.0
合併処理浄化槽の設置助成（累計）	基	195	203	211	219	227	235	243

## 主要施策 5. 効率的な事業運営の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業会計の水道事業、特別会計の下水道事業、農業集落排水事業、熊石地域簡易水道事業について、使用料収入が徐々に減少する一方で施設の老朽化に伴う修繕費や更新費用の増加が見込まれており、今後経営が厳しくなることが予想されます。</li> <li>○限られた人員で事業運営しなければならないため、管理システム等の更新も適宜行っていく必要があります。</li> </ul>
取組の基本的方向	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別会計の3事業については、国からの指導に基づき、令和6年度から企業会計に移行することで、経営状況を明確にし、経営改善の計画策定・実行へと進んでいきます。なお、上下水道事業全般で、サービス供給のために必要な原価の計算を行い、不足分を料金改定する等、健全経営に資する取組を推進します。</li> <li>○管理システム等の更新を適宜実施することで、事務の省力化と経営効率の向上を図ります。</li> </ul>

施策	施策① 管理システム等の更新	施策① 企業会計への移行 施策② 管理システム等の更新
数値目標	なし	なし

## 分野 7 ごみ処理等の環境整備

### 主要施策 1. ごみ分別の推進 ※「主要施策 1. ごみ収集体制の強化」「主要施策 3. 3Rの推進」を統合し、名称を変更。

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生ごみの分別をさらに推進するために、出し易い方法等の検討が必要です。</li> <li>○ごみの減量化や資源化を推進するため、ごみ固形燃料（RDF）化事業の実施による、循環型社会の形成が求められています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生ごみの収集状況は、平成30年度211トン、令和元年度172トン、令和2年度はコロナ禍の影響で事業所の排出量の減少や国立病院の閉鎖により151トンまで減少し、令和3年度は163トンで増加に転じました。一般の個別収集に対しては、八雲衛生協会の生ごみ分別推進事業で、希望する町内会には生ごみ袋の無償配布を実施し、分別の促進に努めていますが、生ごみ排出量は現状維持で推移しています。</li> <li>○プラスチック製容器包装および紙製容器包装の資源物は、分別されずに燃やせるごみに混合されている状況が見受けられるため、分別の推進が必要です。</li> <li>○平成30年度より予定していたごみ固形燃料（RDF）化事業の実施については、収支の試算を行った結果、赤字となる結果から事業計画を中止しました。</li> <li>○熊石地域でのごみ収集は南部檜山衛生処理組合で行っており、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみの3種類となっており、資源ごみとしての収集は行っていません。</li> <li>○収集状況は、可燃ごみが平成30年度535トン、令和元年度525トン、令和2年度493トン、不燃ごみが平成30年度166トン、令和元年度164トン、令和2年度143トン、粗大ごみが平成30年度18トン、令和元年度19トン、令和2年度20トンとなっており、人口減少によりごみの総量は減少傾向にあります。</li> <li>○南部檜山衛生処理組合では令和10年度に破碎・リサイクル施設の供用開始を計画していることから、今後ごみの廃棄量は減少すると思われませんが、供用開始に向けて分別・収集方法やリサイクルへの取組について検討が必要です。</li> </ul>
取組の基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ごみの分別やリサイクルをさらに促進し、廃棄するごみの量を限りなく減量化する循環型社会の形成を推進します。</li> <li>○ごみの減量化と再資源化を図るため、今後も各団体のごみ回収活動に対する助成を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○町ホームページやLINEを活用して、わかりやすい分別方法やリサイクルに関する情報を発信していきます。</li> <li>○各町内会等の団体による資源ごみ集団回収は、ごみ減量化に大きく貢献し、循環型社会への一翼を担っていることから、今後も継続して回収実績に応じた助成をしていきます。</li> </ul>

		○破碎・リサイクル施設の供用開始に向けて、南部檜山衛生処理組合の構成町とともに、ごみの分別・収集方法などの協議を進め、またリサイクル促進を図るため、住民への説明会等を計画します。
施策	施策① 収集体制の充実 施策② ごみ分別の推進	施策① ごみ分別の推進 施策② 3R※の推進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
資源ごみ排出量（八雲地域）	t /年	1,080	1,000
生ごみ排出量（八雲地域）	t /年	230	800

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
リサイクル率（八雲地域）	%	31.0	31.0	31.2	31.4	31.6	31.8	32.0

## 主要施策2. ごみ処理施設の整備 ※削除

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○八雲地域新最終処分場の計画については、現最終処分場の延命化により埋め立て可能年数が延伸されることから、平成38年以降の事業着手となる予定です。</p> <p>○熊石地域では南部檜山衛生処理組合でゴミの処理を行っておりますが、施設の老朽化に伴い、改修等が必要となっており、負担金が増加する可能性があります。</p>	<p>○現最終処分場は、平成13年度に供用を開始し、平成28年度に埋立容量等の拡充変更を行いながら埋立年数を計算し、終了は令和13年12月までの予定としております。そのため、新最終処分場は、令和14年1月から開始する場合は、令和8年度から本工事を行う計画でしたが、現在は年間埋立量が計画量を大幅に下回っており、最低5年以上は計画策定を先送りできる見込みです。令和4年度内に延長可能年数を精査し、令和8年度以降の事業計画を先送りします。</p> <p>○熊石地域では、南部檜山衛生処理組合のゴミの処理施設の老朽化に伴い改修等が急務となっておりますが、大規模な延命化は行わず令和10年度には破碎・リサイクル施設、令和15年度には焼却施設の供用開始を目指して改築する計画です。</p>

取組の基本的方向	なし	なし
施策	施策① 新最終処分場の整備	※後期基本計画の期間（令和5年度から令和9年度）において新最終処分場の整備は不要のため
数値目標	なし	

## 主要施策 2. し尿処理施設の管理

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○し尿処理については、八雲地域では長万部町との共同処理を行っていましたが、施設の老朽化による廃止（予定）により、各町の下水道処理場における単独処理（MICS事業*）の導入実施が必要です。熊石地域では、南部檜山4町との共同処理を行っていますが、施設の老朽化に伴い、改修等が必要となっており、負担金が増加する可能性があります。</p> <p>○下水道の普及により、し尿収集量は減少していますが、町全域への下水道の普及は困難であるため、今後とも適切なし尿収集・処理を図るとともに、適正なし尿処理施設の管理運営が必要です。</p>	<p>○し尿処理については、八雲地域では長万部町との共同処理を行っていましたが、施設の老朽化による廃止により、各町の下水道処理場における単独処理（MICS事業*）を導入しました。</p> <p>○熊石地域では、南部檜山衛生処理組合の施設で処理を行っていますが、施設の老朽化に伴う改修等は最低限の機器更新等にとどめながら、令和20年度で現有施設の稼働を終了する計画となっていますので、その後のMICS事業*への移行についての検討が必要となります。</p> <p>○下水道の普及により、し尿収集量は減少していますが、町全域への下水道の普及は困難であるため、今後とも適切なし尿収集・処理を図るとともに、適正なし尿処理施設の管理運営が必要です。</p>
取組の基本的方向	<p>○し尿処理施設の適正な管理運営を図ります。</p> <p>○MICS事業*（下水道処理場での下水・し尿等の共同処理）を実施し、効率的なし尿処理を推進します。</p>	<p>○し尿処理施設の適正な管理運営を図ります。</p> <p>○MICS事業*（下水道処理場での下水・し尿等の共同処理）の導入により、今後一層の施設の適正な管理運営と効率的なし尿処理を推進していきます。</p>
施策	施策① 一部事務組合*によるし尿処理施設の適切な管理運営	施策① 一部事務組合*によるし尿処理施設の適切な管理運営

	施策② M I C S 事業*の推進	施策② M I C S 事業*の推進
数値目標	なし	なし

### 主要施策 3. 火葬場施設の管理

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○八雲斎場の老朽化に対する維持・修繕を計画的に実施しています。	○八雲町斎場は、昭和62年に供用開始し、火葬炉設備規模は、標準2基、胞衣炉1基となっています。火葬件数は令和3年度実績218件であり、供用開始から35年経過し既存の設備の大半が耐用年数を経過していることから、修繕計画を立て、計画的に延命化を図っています。 ○熊石斎場の老朽化に対する維持・修繕を計画的に実施しています。
取組の基本的方向	○八雲斎場及び熊石斎場の老朽化に伴い、計画的な改修を実施します。	○八雲斎場は、建物及び設備の修繕計画を立て、計画的な延命化と改築を視野に入れた検討をしていきます。 ○熊石斎場の老朽化に伴う計画的な改修を実施します。
施策	施策① 八雲・熊石斎場の設備の改修	施策① 八雲・熊石斎場の設備の改修
数値目標	なし	なし

### 主要施策 公衆浴場の確保 ※削除

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○八雲地域の公衆浴場代替え施設は無いことから、公衆浴場利用者の浴場利用方法について、他の浴場へのシャトルバスの運行等の対策が必要となっています。	○八雲市街地の公衆浴場は平成29年8月に営業を終了しました。 ○公衆浴場法においては、市町村に公衆浴場の設置を義務付けておりませんが、風呂の無い町営住宅の入居者がいることから、公衆衛生対策の

		一環として公衆浴場を確保する代わりに温泉施設へのシャトルバスを運行しています。
取組の基本的方向	○公衆浴場の確保を図ります。	○風呂を設置できない町営住宅が令和4年度中に全て無くなるため、これまで公衆衛生対策の一環として行ってきたシャトルバスの運行を終了する予定であることから、この項目を削除します。なお、八雲市街地の公衆浴場が営業再開出来た場合は、昭和湯の時と同様に公衆浴場の確保のための特別措置に関する法律第6条に基づき運営費の補助を検討します。
施策	施策① 公衆浴場の確保	
数値目標	なし	

**新規** 主要施策 4. 合葬墓施設の管理

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題		○合葬墓は、お墓を所有していない方、お墓を撤去する予定の方、少子化等により遺骨を継承することが困難である方を対象に、遺骨を永代に渡って埋蔵するものであり、八雲町合葬墓及び熊石合葬墓を管理しています。落部地区においても合葬墓が必要のため、令和4年度中に整備します。
取組の基本的方向		○八雲町合葬墓、熊石合葬墓、落部合葬墓が整備されたことから、それぞれの地区で遺骨を永代にわたり管理し、年に1回、合葬墓で慰霊祭を行います。
施策		施策① 合葬墓施設の管理
数値目標		なし

## 分野8 緑化・環境美化の推進

### 主要施策1. 環境美化の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○不法投棄については、年に数件の通報がある等対応を必要としており、八雲衛生協会や町内会等、関係団体の協力のもとに監視活動を行っています。</p> <p>○八雲町の優れた景観や美しい自然環境を保全するため、景観や自然環境の源となる公園の適正な維持・管理を引き続き行う必要があります。</p>	<p>○不法投棄は、年に数件発生しており、不法投棄防止看板の設置や町広報による周知及び八雲衛生協会や町内会等、関係団体の協力のもとに監視活動を行っています。</p> <p>○八雲町の優れた景観や美しい自然環境を保全するため、景観や自然環境の源となる公園の適正な維持・管理を引き続き行う必要があります。</p> <p>○町内の海岸線には、プラスチックごみ等が漂着しているため、海岸環境の保全を目的として海岸ごみ対策を行う必要があります。</p> <p>○各町内会において花壇への植栽や地域内道路のごみ拾い等の清掃活動による地域環境美化活動に取り組んでいます。</p>
取組の基本的方向	<p>○関係機関・団体と連携しながら、自主的な住環境の整備と啓発事業の取組を推進します。</p>	<p>○関係機関・団体と連携しながら、自主的な住環境の整備と啓発事業の取組を推進します。</p> <p>○町内海岸線に漂着する海岸ごみ清掃活動を支援していきます。</p> <p>○町内会等連絡協議会と連携した環境美化活動の普及啓発を行います。</p>
施策	<p>施策① 各町内会等による環境美化や清掃活動の促進</p>	<p>施策① 町内会等による環境美化活動の促進</p> <p>施策② 海岸環境の保全</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
環境美化活動実施町内会	町内会	89	95

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
環境美化活動取り組み団体	町内会	82	82	82	82	82	82	82

## 主要施策 2. 公園や緑地の整備

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道立公園噴火湾パノラマパークは、町内観光の拠点と位置付け、イベントの充実を図り、町内外の人々が集う憩いの場として提供する必要があります。</li> <li>○安全で快適な公園利用のため、遊具の安全性確保のため、遊具点検を毎年実施し、適切な管理を行う必要があります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北海道立公園噴火湾パノラマパークは町内観光の拠点と位置付け、各種イベントの充実を図り、町内外の人々が集う憩いの場として機能しています。また、その他の公園は現状の維持管理をしていきます。</li> <li>○安全で快適に公園を利用していただくため、義務化されている遊具点検を毎年実施し、適切な管理を行っています。</li> </ul>
取組の基本的方向	○人々の憩いの場である公園の適切な管理と緑化を推進するとともに、豊かな景観の保全を図るため、地域住民との協働により維持・管理を行っていきます。	○人々の憩いの場である公園の適切な管理と、緑地の保全を図るため、地域住民との協働により維持・管理を行っていきます。
施策	施策① 都市公園等の良好な管理の推進	施策① 都市公園等の良好な管理の推進
数値目標	なし	なし

## 主要施策 3. 協働による緑化の推進

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○美しい街並み形成のため、団体や個人による花の植栽が行われており、これらの取組を促進する必要があります。</li> <li>○地域での環境美化活動では、熊石地域での「クリーン作戦」</li> </ul>	○現在公園管理は、①噴火湾パノラマパーク：直営管理、②遊楽部公園（その他一部公園含む）：委託管理、③サランベ公園：直営管理、その他の公園等：直営管理、町内会等への委託管理で行っていますが、その他の公園管理について、今後の管

	や八雲地域での「吉田川を守る会」の清掃活動等に加え、近年では、多くの団体や個人の参加による八雲駅前花壇の整備等、町民と行政との協働が実践されています。	理方法の検討が必要と思われます。 ○「花と緑あふれる豊かなまちづくり」に向けて、町内団体の参加による八雲駅前花壇の整備、団体などが育てる花壇づくり等に取り組んでいます。 ○合併後新たに決定した町花ひまわりを普及させるため、毎年ひまわりの種を主要な公共施設で無料配布しているほか、希望のあった小中学校へも希望数を配布しています。配布実績は、平成29年度1,966袋、平成30年度2,178袋、令和元年度1,867袋、令和2年度2,087袋、令和3年度1,996袋となっています。また、山越地区の有志から私有地にひまわりを植えたいとの要望があり、令和元年度から毎年12kgの種を支給しています。
取組の基本的方向	○「花と緑あふれる豊かなまちづくり」に向けて、八雲駅前花壇、団体や個人が育てる花壇づくりを主体に、花いっぱい運動を展開します。 ○人々の憩いの場である公園の適切な管理と緑化を推進するとともに、豊かな景観の保全を図るため、地域住民との協働により維持・管理を行っていきます。(再掲)	○人々の憩いの場である公園の適切な管理と、緑地の保全を図るため、地域住民との協働により維持・管理を行っていきます。(再掲) ○町花ひまわりの町民への普及に努めます。
施策	施策① 地域住民との協働による公園管理と緑化の整備 施策② 町花ひまわりの普及促進	施策① 地域住民との協働による公園管理と緑化の整備推進 施策② 町花ひまわりの普及促進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
協働による緑化の推進	%	70	80
ひまわりの種配布	袋/年	1,955	2,500

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
ひまわりの種配布量（令和5年度以降の累計）	kg	14kg	14kg	14kg	28kg	42kg	56kg	70kg



## 主要施策 2. 地域防犯運動の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○犯罪のない安全で安心な地域社会の実現には、町民一人ひとりが犯罪の被害に遭わないように注意して行動するとともに、地域社会全体が防犯に関する意識を高め、連携・協働して犯行の機会を与えないまちづくりを進めることが重要です。</p> <p>○八雲町では、犯罪の多発までには至っていないものの、空き巣や窃盗が発生しており、児童・生徒への不審行為も認知されています。これら犯罪の発生防止のため、行政・警察・防犯協会・暴力追放運動推進協議会・ボランティア団体等が連携し、啓発活動や巡回パトロール等が行われています。</p>	<p>○八雲町では、これまで行政・警察・防犯協会・暴力追放運動推進協議会・ボランティア団体等が連携し、啓発活動や巡回パトロール等を行い、犯罪発生防止に努めてきました。このような活動が、犯罪発生を抑止になっていると考えられますが、空き巣や窃盗、児童・生徒への不審行為等の犯罪は後を絶ちません。</p> <p>○犯罪被害にあわないように一人ひとりが注意して行動するとともに、関係団体が協力・連携し、地域の防犯に対する意識の向上を図るような啓発活動・パトロール等を行う必要があります。</p> <p>○犯罪の抑止を図るため公共施設や街頭への防犯カメラの設置を推進する必要があります。</p> <p>○街路灯の設置は道路上の見通しの確保や地域の防犯対策のため必要不可欠であり、地域住民が安心・安全に生活するためにも重要です。</p>
取組の基本的方向	<p>○防犯街路灯のLED化の推進と適切な維持管理への支援を行います。</p> <p>○防犯協会や自主防犯パトロール隊との連携を強化し、近年の犯罪傾向を考慮した啓発活動を実施します。</p>	<p>○防犯協会や自主防犯パトロール隊との連携を強化し、近年の犯罪傾向を考慮した啓発活動を実施します。</p> <p>○通学路を中心に公共施設前や主要な交差点等に防犯カメラを設置することにより犯罪の未然防止に努めます。</p> <p>○町内会等が維持管理する街路灯の設置費、管理費に対する財政支援を継続します。</p>
施策	<p>施策① 防犯対策の推進</p> <p>施策② 防犯運動団体の育成と強化</p> <p>施策③ 防犯街路灯管理団体への支援</p>	<p>施策① 防犯対策の推進</p> <p>施策② 防犯運動団体の育成と強化</p> <p>施策③ 街路灯管理団体への財政支援</p>
数値目標	なし	なし

**主要施策 3. 交通安全の推進** ※「主要施策 3. 交通安全施設の充実」「主要施策 4. 交通安全団体への活動支援」を統合し、名称を変更。

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○八雲町の交通事故による死者の数は減少傾向にありますが、交通事故の発生件数は減少していないことから、交通事故防止に向けてソフト・ハード両面から環境づくりを行う必要があります。</p> <p>○交通安全運動は、交通安全運動推進委員会を中心に、各種団体の連携のもとに取組が行われており、町内会活動の一環として交通安全啓発活動の取組に参加する町内会も増加しています。一方で、交通安全啓発活動の中核を担う交通安全指導員は、高齢化によって人員が減少傾向にあるため、担い手の育成が課題となっています。</p>	<p>○八雲町の交通事故発生件数は、十数年前に比べ大幅に減少していますが、全国的には高齢者が原因者となる事故の割合が高くなってきており、また、通学路での児童・生徒が巻き込まれる事故が毎年のように発生していることから交通弱者への安全対策が必要です。</p> <p>○イベント開催に合わせた街頭啓発や幼児・児童及び高齢者に対する交通安全教室については、新型コロナウイルス感染症の流行により対面での実施が難しくなっていることから、様々な情報媒体を活用して啓発活動を行う必要があります。</p>
取組の基本的方向	<p>○カーブミラーの新設・補修及び通学路を優先とした道路区画線設置工事等の交通安全施設の整備を継続し、危険道路の改善を図ります。</p> <p>○関係団体との連携を強化し、交通安全運動を推進するとともに、各地域に交通安全指導員等の担い手の確保を図ります。</p>	<p>○高齢者の運転免許証の返納を促進するため、返納者に対する支援制度を充実させ、高齢運転者の事故の減少に努めます。</p> <p>○通学路の交通点検において危険箇所とされた場所について、通学路を優先とした道路区画線設置工事等の交通安全施設の整備を継続し、横断歩道や歩行者用信号機の設置について関係機関に要望を行い、危険道路の改善を図ります。</p> <p>○関係団体との連携を強化し、交通安全運動を推進するとともに、様々な情報媒体を用いて交通安全に関する情報の発信力を強化します。</p>
施策	<p>主要施策 3. 交通安全施設の充実</p> <p>    施策① カーブミラーや道路標識等の交通安全施設の整備</p> <p>主要施策 4. 交通安全団体への活動支援</p> <p>    施策① 交通安全団体等との連携強化</p> <p>    施策② 町民総ぐるみ交通安全運動の推進</p>	<p>施策① カーブミラーや道路標識等の交通安全施設の整備</p> <p>施策② 高齢者等の運転免許証自主返納の推進</p> <p>施策③ 交通安全団体等との連携強化</p> <p>施策④ 町民総ぐるみ交通安全運動の推進</p> <p>施策⑤ 交通安全情報の発信強化</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28 年度)	目標値 (H34 年度)
街頭での交通安全啓発活動	回/年	25	30
交通安全教室開催	回/年	42	50

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R2～R3 合計	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
運転免許証返納事業利用者数（R2 年度以降の累計）	人	170	224	278	332	392	452	512
目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度
交通安全啓発活動	回	17	25	25	30	30	35	35

## 分野 1 0 消防・救急体制の充実

### 主要施策 1. 消防力の強化

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化に伴う、消防庁舎（出張所）及び格納所の改修・修繕が必要となっております。</li> <li>○消防救急無線のデジタル化に伴う、短い電波放射性的の特性を補うために署活系無線や携帯電話回線を増設し、各種災害活動現場における通信網の強化を図る必要があります。</li> <li>○熊石消防団格納所の確保計画（用途変更に伴う建物の情報収集等）の策定が必要です。</li> <li>○若者の消防団入団促進のために「消防団協力事業所表示制度」等を活用し充実を図る必要があります。</li> <li>○消防団配備の消防車運行に必要な中型免許取得等の全額助成が必要となっております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○老朽化に伴う、消防庁舎（出張所）及び格納所の改修・修繕が必要となっております。</li> <li>○ICT*化の進展に伴い、各種災害現場に対応可能な通信網を強化し、既設通信機器（消防救急デジタル無線等）の整備更新を実施します。</li> <li>○熊石消防団格納所の確保計画（用途変更に伴う建物の情報収集等）の策定が必要です。</li> <li>○消防団員の高齢化及び団員数の減少傾向がみられることから、若者の入団促進、分団構成の見直しが必要です。</li> <li>○消防団配備の消防車運行に必要な免許取得等の助成が必要となっております。</li> <li>○老朽化の著しい消防水利が増加していることから、更新・整備する必要があります。</li> </ul>
取組の基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設整備の更新や安全装備品の更新等、計画的・効果的に実施します。</li> <li>○補助事業を活用し、老朽化した車両更新を計画し、時代のニーズに合わせた装備の導入を行います。</li> <li>○宅地環境の変化等を考慮し、消防水利整備を年次計画で実施します。</li> <li>○八雲・熊石消防団の重要性をアピールし、積極的な入団を募ります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設や安全装備品の更新等、計画的・効果的に実施します。</li> <li>○補助事業を活用し、計画的な車両更新と、時代のニーズに合わせた装備を導入していきます。</li> <li>○宅地環境の変化等を考慮し、消防水利整備を年次計画で実施します。</li> <li>○消防団入団促進事業等の活用や処遇改善により入団を促進するとともに、分団の統合を検討します。また、少人数でも活動できる資機材の導入を行い、八雲・熊石両消防団の統一的運用を目指します。</li> </ul>
施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策① 消防庁舎や格納所の整備</li> <li>施策② 消防車両等の整備</li> <li>施策③ 消防通信施設、設備の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施策① 消防庁舎や格納所の整備</li> <li>施策② 消防車両等の整備</li> <li>施策③ 消防通信施設、通信網の整備更新</li> </ul>

施策④ 消防水利の整備 施策⑤ 安全装備品の整備 施策⑥ 消防団員の確保、充実	施策④ 消防水利の整備 施策⑤ 安全装備品の整備 施策⑥ 消防団員の確保、消防団機能の充実
---	---

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
耐震性貯水槽の整備（累計）	基	2	13

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
耐震性貯水槽の整備（累計）	基	11	13	13	14	14	14	14

## 主要施策2. 救急・救助の強化、充実

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○国から示されている、救急救命士に対する再教育の指導教育指針時間を満たすことを目標に、中核医療機関での再教育研修を行います。</p>	<p>○救急救命士の処置範囲の拡大に伴い、高度な救急医療の需要が増加していることにより、国及び道から示されている救急救命士に対する再教育指針を満たす為に、救急救命センターへの病院実習派遣及び各種教育プログラムへの参加を進めています。</p> <p>○複雑多様化する災害に対応する為に必要な資機材の導入、同時に資機材を扱う隊員の知識・技術の向上が必要です。</p> <p>○指導的立場の救急救命士を養成し、消防署内での教育体制の構築を進める必要があります。</p>
取組の基本的方向	<p>○施設整備の更新や安全装備品の更新等、計画的・効果的に実施します。（再掲）</p> <p>○補助事業を活用し、老朽化した車両更新を計画し、時代のニーズに合わせた装備の導入を行います。（再掲）</p>	<p>○施設整備の更新や安全装備品の更新等、計画的・効果的に実施します。（再掲）</p> <p>○補助事業を活用し、計画的な車両更新と、時代のニーズに合わせた装備を導入していきます。（再掲）</p> <p>○救急救命士の病院実習及び各種教育プログラムを通じて、救急業務に必要な知識や技術の維持向上に努めます。</p>

施策	施策① 高規格救急車 <sup>*</sup> の整備	施策① 高規格救急車 <sup>*</sup> の整備
	施策② 救急・救助資機材の整備	施策② 救急・救助資機材の整備
	施策③ 救急救命士の再教育	施策③ 救急救命士の再教育

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
救急救命士再教育（延べ）	人	23	50

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
救急救命士1人当たりの平均教育時間数	時間/人	28	36	40	50	55	64	64

### 主要施策3. 町民参画による火災予防等の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	なし	○住宅用火災警報器の設置について、条例改正から10年以上が経過していることから機器のメンテナンス（取替等）を指導していく必要があります。
取組の基本的方向	○各町内会への防火・防災対策の啓発活動、各事業所等へ避難訓練の積極的な働きかけ、一人暮らし高齢者世帯の防火・防災対策強化や住宅用火災警報器設置率の向上を目指します。	○避難訓練・防火懇談会及びひとり暮らし世帯の高齢者に対する防火訪問を通じ町民の防火意識の向上を図ります。 ○住宅用火災警報器の設置率の向上及び耐用年数経過後の取替えや試験方法の普及を図ります。
施策	施策① 消防防火訓練の実施と町民防火意識の高揚 施策② 住宅防火対策の強化 施策③ 普通救命講習の開催 施策④ 関係団体との連携による火災予防運動の推進	施策① 消防防火訓練の実施と町民防火意識の高揚 施策② 住宅防火対策の強化 施策③ 普通救命講習の開催 施策④ 関係団体との連携による火災予防運動の推進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
事業所の避難訓練の実施	回/年	117	130
住宅用火災警報器設置率	%	80	90

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
事業所の避難訓練回数	回/年度	107	110	113	116	119	123	127
住宅用火災警報器設置率	%	85	86	87	88	89	90	91

## 分野 1 1 防災体制の強化

### 主要施策 1. 河川や排水路の整備及び維持管理

	第 2 期総合計画策定当初	第 2 期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○河川については、近年の集中豪雨や施設の老朽化の影響もあり、河岸の崩壊や護岸施設等の損壊が著しくなっています。また、自然環境・周辺環境を含めた河川の荒廃が目につくようになっており、その要因の除去や保全対策を考えていくことが必要です。</p> <p>○排水路については、集中豪雨や施設の老朽化のため、排水路施設等の損壊が著しくなっています。また、排水路周辺からの土砂等の流入による断面阻害の発生で、溢水等の排水障害が頻繁に生じているため、要因の除去を含めた対策を考えていくことが必要です。</p>	<p>○河川については、近年の集中豪雨や施設の老朽化の影響もあり、河岸の崩壊や護岸施設等の損壊が著しくなっています。また、自然環境・周辺環境を含めた河川の荒廃が目につくようになっており、その要因の除去や保全対策を考えていくことが必要です。</p> <p>○排水路については、集中豪雨や施設の老朽化のため、排水路施設等の損壊が著しくなっています。また、排水路周辺からの土砂等の流入による断面阻害の発生で、溢水等の排水障害が頻繁に生じているため、要因の除去を含めた対策を考えていくことが必要です。</p>
取組の基本的方向	<p>○河川については、個々の周辺状況や特性等の現状を把握し、護岸施設等の適正な維持管理や河川環境の改善に努めます。</p> <p>○排水路については、現況施設の状況を的確に把握し計画的に修繕等を実施していくとともに、排水路周辺の利用者とも連携を図りながら、良好な維持管理に努めます。</p>	<p>○河川については、個々の周辺状況や特性等の現状を把握し、護岸施設等の適正な維持管理や河川環境の改善に努めます。</p> <p>○排水路については、現況施設の状況を的確に把握し計画的に修繕等を実施していくとともに、排水路周辺の利用者とも連携を図りながら、良好な維持管理に努めます。</p>
施策	<p>施策① 防災上、必要とされる河川や排水路施設の整備</p> <p>施策② 河川や排水路施設の適切な維持管理</p>	<p>施策① 防災上、必要とされる河川や排水路施設の整備</p> <p>施策② 河川や排水路施設の適切な維持管理</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
なし			

数値目標（第 2 期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
災害等による被害発生件数	件	0	0	0	0	0	0	0

## 主要施策2. 治山事業の推進

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○急傾斜地や脆弱な地盤で災害が発生しやすい箇所もあることから、適切な対処が必要であるとともに、治山施設の老朽化への対応が必要となっています。	○急傾斜地や脆弱な地盤で災害が発生しやすい箇所もあることから、適切な対処が必要であるとともに、治山施設の老朽化への対応が必要となっています。
取組の基本的方向	○治山施設の適切な維持管理とともに、災害の発生が顕著、あるいは予測される箇所については、周辺環境に配慮しながら計画的に治山事業を推進します。	○治山施設の適切な維持管理とともに、災害の発生が顕著、あるいは予測される箇所については、周辺環境に配慮しながら計画的に治山事業を推進します。
施策	①治山事業の計画的な推進 ②相沼地区地すべり防止区域維持管理 ③山地災害の予防	施策① 治山事業の計画的な推進と既存施設の維持管理 施策② 相沼地区地すべり防止区域維持管理 施策③ 山地災害の予防

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
生活環境保全林下刈	ha/年	7.94	8.45

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
山地災害発生件数	件/年	0	0	0	0	0	0	0

## 主要施策3. 海岸施設の整備

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	○護岸等の保全施設について、老朽化が顕著になってきている施設を常に把握し、海岸単独事業費要望・社会資本要望にて、老朽施設等の改善	○護岸等の保全施設について、老朽化が顕著になってきている施設を常に把握し、海岸単独事業費要望・社会資本要望にて、老朽施設等の改善

題	を積極的に要請していく必要があります。	を積極的に要請していく必要があります。 ※八雲地区 山越、浜松海岸整備中（道事業主体）
取組の基本的方向	○護岸等保全施設の実態を常に把握し、国や道へ老朽施設等の改善を積極的に要請します。	○護岸等保全施設の実態を把握し、国や道へ老朽施設等の改善を積極的に要請します。 ※地域要望は引き続き要望する。
施策	①護岸等施設の整備促進	施策① 護岸等施設の整備促進

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
なし			

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
北海道等に対するの要望回数	回	1	1	1	1	1	1	1

## 主要施策 4. 地域防災体制の整備

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と課題	<p>○平成23年3月11日に発生した東日本大震災等により、自然災害に対する防災意識が急速に高まっています。この意識を持続させ、町民が安全に避難することができる体制づくりを整えるため、速やかな情報伝達や避難誘導の方法についてハード・ソフトの両面において再点検が必要となっています。</p> <p>○災害時の情報伝達について、「防災行政無線」の整備によってハード面の整備は完了するため、今後は円滑な情報伝達、避難誘導を行うための運用体制の構築を図る必要があります。</p> <p>○災害等の危機に強いICT※システムの構築のため、重要システムのクラウド</p>	<p>○平成23年3月11日に発生した東日本大震災や令和3年度に公表された千島・日本海溝の地震津波想定など、自然災害に対する防災意識が急速に高まっています。この意識を持続させ、町民が安全に避難することができる体制づくりを整えるため、速やかな情報伝達や避難誘導の方法についてハード・ソフトの両面において再点検が必要となっています。</p> <p>○災害時の情報伝達については、平成28年から「防災行政無線」を運用していますが、住民から「聞こえにくい」との指摘があるた</p>

	ド*化を推進していくとともに、通信回線の冗長化や庁舎の電力確保等、インフラの増強を図ります。	め、今後は確実に情報伝達を行うためのシステム導入を検討する必要があります。
取組の基本的方向	<p>○災害発生時における情報伝達方法や避難方法の構築、地域防災計画をはじめとした諸計画の見直しや策定によって、総合的な防災体制の充実を図ります。</p> <p>○時代の要請に対応した業務のICT*化を進めるとともに、クラウド*、シンクライアント*等、技術動向を踏まえながら、災害や情報セキュリティインシデント*等の危機に強いICT*システムを構築していきます。</p> <p>○災害備蓄計画については、災害発生時に必要な物品は多種多様なため、一部内容の見直しを検討し、必要性の高い物資の備蓄を進めていきます。また、各町内会の地域津波避難計画作成を推進していきます。</p>	<p>○災害発生時における情報伝達方法や避難方法の構築、地域防災計画をはじめとした諸計画の見直しや策定によって、総合的な防災体制の充実を図ります。</p> <p>○災害備蓄計画にに基づき寒冷期対応した備蓄を進めます。</p>
施策	<p>施策① 地域防災計画等の整備と町民への周知徹底</p> <p>施策② 災害備蓄品の配備と各種災害協定の締結推進</p> <p>施策③ 防災行政無線の整備と活用</p>	<p>施策① 地域防災計画等の整備</p> <p>施策② 寒冷期に対応した災害備蓄品の整備</p> <p>施策③ 新しい防災情報伝達システムの整備と活用</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
災害備蓄品毛布整備（累計）	枚	4,099	5,400

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
寒冷期対応備蓄品の整備率	%	44	44	49	54	59	64	69

## 主要施策5. 地域の防災力の強化

	第2期総合計画策定当初	第2期総合計画見直し時
現況と	○平成23年3月11日に発生した東日本大震災等により、自然災害に対する防災意識が急速に高まっています。この意識	○平成23年3月11日に発生した東日本大震災や令和3年度に公表された千島・日本海溝の地震津波想定など、自然災害に対する防災意識が急速に高まっています。この

<p>課題</p>	<p>を持続させ、町民が安全に避難することができる体制づくりを整えるため、速やかな情報伝達や避難誘導の方法についてハード・ソフトの両面において再点検が必要となっています。(再掲)</p> <p>○各町内会に図上訓練の実施を働きかけながら、防災訓練の重要性を説き、自助・共助・公助の協力体制構築を図る必要があります。</p>	<p>意識を持続させ、町民が安全に避難することができる体制づくりを整えるため、速やかな情報伝達や避難誘導の方法についてハード・ソフトの両面において再点検が必要となっています。(再掲)</p> <p>○防災知識の向上を図るために、各町内会や学校等に対し防災講話や研修会、防災訓練の重要性を説き、自助・共助・公助の協力体制を図る必要があります。</p> <p>○各町内会に図上訓練の実施を働きかけながら、防災訓練の重要性を説き、自助・共助・公助の協力体制構築を図る必要があり、コロナ禍により取組が進められない状況にありますが、感染症蔓延下における防災対策の推進が求められています。</p> <p>○高齢者や障がい者等避難行動要支援者対策の充実として、災害時要支援者個別支援計画の策定を推進する必要がありますが、町内会において高齢化が進み支援者のなり手の確保が難しく目標が達成できていません。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から町内会への出前説明会の実施もできていないことから、周知方法を検討しつつ地域の理解を得ながら、取り組み町内会を増やしていく必要があります。</p>
<p>取組の基本的方向</p>	<p>○防災に関する学習会や図上訓練、総合防災訓練を実施するなど、さらなる防災意識の高揚を促進するとともに、地域ごとの避難方法の確認や自主防災組織づくり等、地域における防災体制の充実を図ります。</p> <p>○熊石地域においては、閉校となった施設も含め、学校施設すべてが避難所に指定されていることから、現況施設の状況を把握し、災害時に有効に活用できるよう維持管理に努めます。</p>	<p>○防災に関する学習会や図上訓練、総合防災訓練を実施するなど、さらなる防災意識の高揚を促進するとともに、地域ごとの避難方法の確認や自主防災組織づくり等、地域における防災体制の充実を図ります。</p> <p>○熊石地域では、閉校となり跡地利用が難しい学校施設及び公共施設の解体が計画されていることから、これに合わせて避難所の見直しとともに、災害時に備え避難施設の整備及び適切な維持管理に努めます。</p>
<p>施策</p>	<p>施策① 高齢者や障がい者等避難行動要支援者対策の充実                  施策② 避難所・避難路の整備</p>	<p>施策① 避難所・避難路の整備                  施策② 防災意識高揚の促進</p>

数値目標（当初計画）

目標指標	単位	現状値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
災害時要援護者個別支援計画の策定町内会	町内会	5	10
防災訓練実施団体	団体	5	10

数値目標（第2期総合計画見直し時）

目標指標	単位	基準値	見込値	目標値				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
防災訓練等実施回数	回	0	1	1	1	1	1	1

## 用語解説（五十音順）

用語	用語の説明
<b>あ行</b>	
ICT（アイシーティ）	Information and Communication Technology の略で、情報通信技術の意味を表し、インターネット等の通信とコンピューターとを駆使する情報技術のこと。
アセットマネジメント	良好なサービスを持続的に提供していくために、資産（人、施設、予算など）の投入を最適化しようという考え方。
一部事務組合	複数の市町村が、事務の一部を共同で処理するために設立する団体。地方自治法に規定されている。
SNS（エスエヌエス）	Social Networking Service の略で、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。広く知られている SNS としては、LINE や Twitter、Facebook など。
SMS（エスエムエス）	Short Message Service の略。携帯電話の電話番号を使ってメッセージがやりとりできるサービス。送信相手のメールアドレスが分からなくても電話番号が分かれば送信することができる。
<b>か行</b>	
居住誘導区域	都市再生特別措置法に定められている「都市の居住者の居住を誘導すべき区域」のことで、立地適正化計画において定められる。居住誘導区域内においては居住環境の向上や公共交通の確保などの措置が講じられる一方、居住誘導区域外では開発行為や建築等行為などの制限がかけられる。
クラウド	ソフトやデータ、あるいはそれらを提供するための基盤等を、インターネット等のネットワーク上で共有すること、またそのサービス。
高規格救急車	救急患者に救命処置を行える資機材等を積載し、搬送時に振動を与えないような緩衝装置を備えた救急車。
コミュニティ活動	同じ地域の住民が、地域をより良くするために活動する、住民同士のつながりに基づく参加型の自治活動。
コミュニティバス	既存の路線バス等に対応することができない地域の実情に応じて、自治体等が主体となって運行する乗合バス。
コンパクトシティ	自治体の中心部に商業施設・住宅等様々な都市機能を集約し、市街地の活性化や行政コストの削減を図り、住民の利便性を向上させた都市。
<b>さ行</b>	
再生可能エネルギー	一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しない、永続的に利用できると認められるエネルギー。例として太陽光・風力・地熱など。
自然保護監視員	自然環境の保全並びに記念保護樹木の保全を目的として監視、指導等を行うもので、北海道自然環境等保全条例に基づき北海道

用語	用語の説明
	知事が任命する。
情報セキュリティインシデント	コンピューターの利用や情報管理、情報システム運用に関して、保安（セキュリティ）を脅かす事件や事故、及びセキュリティ上好ましくない事象・事態。
シンクライアント	個々のパソコンは必要最低限の機能だけにし、大元で情報資源を一元管理する仕組み。情報漏えい対策等、セキュリティ強化を実現することが可能。
スマート I C（アイシー）	スマートインターチェンジの略。高速道路の既存施設から一般道に出入りできるよう設置される E T C 専用の簡易型インターチェンジのこと。
3 R（スリーアール）	Reduce（ごみの量を少なくすること）、Reuse（一度使った物を何度も使うこと）、Recycle（使い終わった物を資源に戻して製品を作ること）を一括りにした言葉。ごみを限りなく少なくし、環境への悪影響を極力減らし、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会をつくる取組。
<b>た行</b>	
地籍調査	主に市町村が主体となって、土地の所有者・地番・地目を調査し、境界の位置と面積を測量する調査。
デマンド交通	利用者の要望に応じ、運行ルート・時間・乗降場所等を柔軟に対応する仕組み。（電話での事前予約が必要）
特定空家等	そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態その他周辺的生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる空家等。
<b>な行</b>	
<b>は行</b>	
ブルーカーボン	藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素のこと。
並行在来線	新幹線と並行して走る既存の鉄道路線。
<b>ま行</b>	
マスタープラン	基本的な方針として位置付けられる計画。全体の基本となる計画又は設計。
M I C S（ミックス）事業	汚水処理施設共同整備事業のこと。M I C S 事業により、し尿汚泥や浄化槽汚泥も下水処理場で一括して共同処理することが可能となる。
<b>や行</b>	
有収率	給水する水量と料金として収入のあった水量との比率。

用語	用語の説明
ら行	
ライフサイクルコスト	建物や構造物では、計画・設計・施工から維持管理・解体までにかかる経費の合計。
立地適正化計画	居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能の誘導により、一定の人口密度を維持しながらコンパクトなまちづくりと公共交通の確保を図り、持続可能な都市づくりを推進していくための計画。
わ行	

## 第 2 期八雲町まち・ひと・しごと創生総合戦略の 一部変更について

### 1 総合戦略の一部変更理由について

- 「総合戦略」は人口減少対策のための計画だが、企業版ふるさと納税の根拠にもなっており、いただいた寄附金を充当する事業は「総合戦略」に掲載されている必要がある。
- この度、企業版ふるさと納税の寄附対象事業にブルーカーボン（海藻による二酸化炭素吸収）の取組である「熊石地域コンブ養殖試験事業」を追加しようとするもの。
- 既に登載している「サーモン試験養殖事業」を令和 4 年度までとしているので、これを令和 6 年度まで延長しようとするもの。
- また、第 2 期総合計画 後期基本計画（総論）5 戦略プロジェクト（1）八雲町自立促進プロジェクトにおいて、農業生産額の目標値（令和 9 年度）を 10,500 百万円に見直すことから総合戦略における令和 6 年度の目標値を変更しようとするもの。

### 2 変更内容

#### （1）熊石地域コンブ養殖試験事業の追加

取組・事業	熊石地域コンブ養殖試験事業
K P I	養殖ホソメコンブ生産量
基準値	令和 4 年度 5.6 t
目標値	令和 6 年度 6.2 t

#### （2）サーモン試験養殖事業の目標値変更

##### <変更前>

取組・事業	サーモン試験養殖事業
K P I	サーモン養殖試験生産量
基準値	令和元年度から養殖を始めており、一度も出荷していないことから、基準値なし。
目標値	令和 4 年度出荷分 2,800kg

<変更後>

取組・事業	サーモン試験養殖事業
K P I	サーモン養殖試験生産量
基準値	令和2年度出荷分 <u>2.5 t</u>
目標値	令和6年度出荷分 <u>40 t</u>

(3) 重要目標達成指標 (KGI) (農業産出額) 目標値変更

<変更前>

指 標	農業産出額	漁獲高
基準値	平成29年 839千万円	平成29年 576千万円
目標値	令和6年 <u>840千万円</u>	令和6年 580千万円

<変更後>

指 標	農業産出額	漁獲高
基準値	平成29年 839千万円	平成29年 576千万円
目標値	令和6年 <u>943千万円</u>	令和6年 580千万円